



福島県浪江町における生活情報の受信に関する調査 報告書

2013年9月27日

浪江町役場 復興推進課

株式会社KDDI総研

◆調査の背景

平成23年3月11日の東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所の事故の影響により、福島県浪江町は全町避難を余儀なくされ、平成25年9月現在に至るも全町民が故郷を離れて避難生活を続けている。平成24年12月に浪江町役場からKDDI総研に対して、同役場が平成23年11月、平成24年6月に実施した全町民を対象としたアンケート調査において「生活に関する情報が不足している」との回答が両調査とも20%弱（平成23年11月調査 16.6%、平成24年6月調査 16.8%）に達していることから、その原因解明と解決策の検討に係る調査実施の相談を受けた。

そこで、平成25年2月、浪江町役場とKDDI総研が連携し、「福島県浪江町避難町民における生活情報の受信に関する調査」を実施することとした。

本調査実施の背景には、町民の情報不足を放置することは、浪江町離れにつながり、町の復興に大きな支障を来してしまうとの懸念があること。また、浪江町役場が、避難生活開始後、浪江町的全避難世帯に対して、①浪江町広報誌の送付（月2回）、②ケータイ向けメールマガジンの配信（随時）、③情報端末フォトビジョンの配布と同端末向けの情報配信（随時）、④浪江町役場HPを通じた情報提供という複数のツールを用いた手厚い対応を既に行っており、今後の対応について苦慮していたとの事情もある。

◆調査の目的

前頁記載の背景を踏まえ、本調査は、

- (1) 町民の方々が、生活情報を不足していると感じる原因（課題）の解明
- (2) 当該課題の解決策の導出、提案
- (3) 浪江町復興に資する施策の提案

の三つを目的として、平成25年2月から9月末にかけて実施した。

なお、本調査は

東洋大学社会学部 准教授 関谷直也氏

首都大学東京システムデザイン学部 助教 橋爪絢子氏

との共同調査である。

1-2. 浪江町概要

平成25年8月8日時点

- ✓ 福島県の最東端に位置する町。人口20,908人（2010年）
- ✓ 2011年東日本大震災で被災。津波被害等の犠牲者は182名に上る。さらに福島第一原子力発電所事故の影響を受け、住民は福島県内外に今も離散避難している。
- ✓ 町役場の機能は福島県二本松市事務所に移設されている。



<参考資料>

浪江町ホームページ (<http://www.town.namie.fukushima.jp/soshiki/2/220.html>)

経済産業省ホームページ (<http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/kinkyu.html#shiji>)

平成22年国勢調査（総務省統計局）

第2回復興に関する町民アンケート集計結果（浪江町）



2. 調査の実施概要

本調査は大きく3つに分けて行った。実施方法は以下のとおり。

(1) 浪江町民を対象にしたインタビュー調査

調査目的：生活情報が不足していると感じる原因（課題）の仮説構築

調査地域：福島県、宮城県、新潟県、埼玉県

調査対象：浪江町の避難町民 70名、浪江町役場等の自治体職員 5名、
浪江町商工会職員 1名 計76名

調査方法：個別インタビュー、グループインタビュー

調査時期、回数：平成25年2月8日(金)から8月6日(火)の間で9回のインタビューを実施

(2) 浪江町民を対象にしたアンケート調査

調査目的：上記仮説の検証

調査地域：日本全国（平成24年9月30日時点で和歌山県を除く46都道府県に避難）

調査対象：浪江町の避難世帯 4,253世帯（回収率43.1%、総世帯数9,869世帯）

調査方法：郵送によるアンケート調査

調査時期：平成25年7月1日(月)から7月20日(土)

(3) 浪江町の課題解決、及び浪江町復興をテーマとした有識者ヒアリング

実施目的：浪江町民の抱える課題等の解決策検討のため、各分野の専門家へのヒアリングを実施

実施時期：平成25年8月7日(水)から8月30日(金)の間で3人の方にヒアリング

3-1. インタビュー調査実施地域



県内の主要避難先

| | |
|------|--------|
| 福島市 | 3,712名 |
| 二本松市 | 2,584名 |
| いわき市 | 2,215名 |
| 郡山市 | 1,641名 |
| 南相馬市 | 1,030名 |

隣接県の主要避難先

(茨城県 838名)

新潟県 566名

宮城県 564名

(栃木県 418名)

※ () は関東圏の避難先

関東圏の主要避難先

| | |
|------|------|
| 東京都 | 965名 |
| 茨城県 | 838名 |
| 埼玉県 | 780名 |
| 千葉県 | 592名 |
| 神奈川県 | 516名 |
| 栃木県 | 418名 |

調査実施拠点

計76名の方への
インタビュー実施

<参考資料> 浪江町ホームページ

3-2. インタビュー調査実施状況

| | 実施日時 | 実施場所 | 内容 | 対象者数 |
|----|-------|--------------------------------|--|------|
| 1 | 2月8日 | 浪江町役場 (福島県二本松市) | ・浪江町役場の関係で町民対応をしている職員等へのインタビュー ・生活支援相談員、看護師、保健師、浪江町役場総合受付係の計4名の方に、町民の生活情報の受信状況及び不安、不満等について個別インタビューを実施 | 4名 |
| 2 | 2月17日 | エル・パーク仙台 (宮城県仙台市) | ・浪江町交流会(しゃべり場)への参加町民へのインタビュー ・40代～60代の仙台市に避難している町民の方に、交流会のプログラム終了後にグループインタビューを実施 | 16名 |
| 3 | 2月22日 | いわき市 文化センター (福島県いわき市) | ・浪江町交流会(しゃべり場)への参加町民へのグループインタビュー ・40代～60代の福島県内(いわき市22名、福島市3名)で避難している町民の方に、交流会のプログラム終了後にグループインタビューを実施 | 25名 |
| 4 | 3月2日 | KDDI東北支社 (宮城県仙台市) | ・2月17日の交流会に参加されていた方たちの中でインタビューに協力頂ける方をリクルーティングし、2時間30分のグループインタビューを実施 ・協力頂いた8名は、30代～60代と年齢的な開きはあるが、仙台避難後に親密なコミュニティを形成し定期的に交流している方々 | (8名) |
| 5 | 3月3日 | 大宮ソニックシティ (埼玉県さいたま市) | ・浪江町交流会(しゃべり場)への参加町民へのインタビュー ・40代～70代の埼玉県に避難している町民の方に、交流会のプログラム終了後にグループインタビューを実施 | 15名 |
| 6 | 3月20日 | サロンむげん (新潟県柏崎市) | ・新潟県柏崎市で福島県からの避難者支援をしている増田様にインタビューに参加頂ける浪江町民の方を集めて頂き、グループインタビューを実施 ・実施場所のサロンむげんは増田様が経営されているもので、福島県からの避難者の交流の場として提供されている ・20代～40代の若い方へのインタビューとなり、幼い子供を連れた避難家族の状況を確認 | 4名 |
| 7 | 5月10日 | 浪江町役場 (福島県二本松市) | ・浪江町の小中高生(中学生が中心)を対象としたスクールソーシャルワーカーへのインタビュー ・不登校やいじめ被害などの小中高生へのケアの状況等について話を伺った | 1名 |
| 8 | 5月10日 | 二本松市安達運動場 仮設住宅 (福島県二本松市) | ・仮設住宅に住まわれている10名の町民の方に対し、6名、4名の2グループに分かれてのグループインタビュー ・30代～70代の幅広い年齢層の方に対して、仮設住宅での生活状況を中心に話を伺った | 10名 |
| 9 | 8月6日 | 浪江町商工会 (福島県二本松市) | ・浪江町商工会事務局長の方に浪江町の事業主の方たちの事業再開に向けた取り組み状況、そうした活動に対する商工会の支援内容等を中心にインタビュー | 1名 |
| 合計 | | | | 76名 |

- インタビュー調査の結果から、「生活に関する情報が不足している」と感じる原因（課題）の仮説として以下の9つが導き出された

- ① 日々の暮らし（買い物・病院等）で必要な情報は不足してはいない
- ② 将来の生活設計を描くための情報が不足している
- ③ 帰町意識が低い人ほど情報収集にも消極的で、情報満足度が低い
- ④ 県外避難者の方が県内避難者よりも情報満足度が低い（県外避難者は関心が薄い）
- ⑤ 借上住宅居住者は仮設住宅居住者よりも情報に触れる機会が少なく、情報満足度が低い
- ⑥ IT機器を使えない高齢者の情報満足度は低い（ITを使える若い世代は満足度が高い）
- ⑦ 町民交流会に参加しない人は対面での情報収集機会に乏しく、情報不足を感じる
- ⑧ 自治体からの情報は結果のみで、そこに至る過程の説明がないことに不足感がある
- ⑨ （全般的に）帰町意識が低下している

4. アンケート調査による仮説の検証

【仮説①】日々の暮らし（買い物・病院等）で必要な情報は不足してはいない

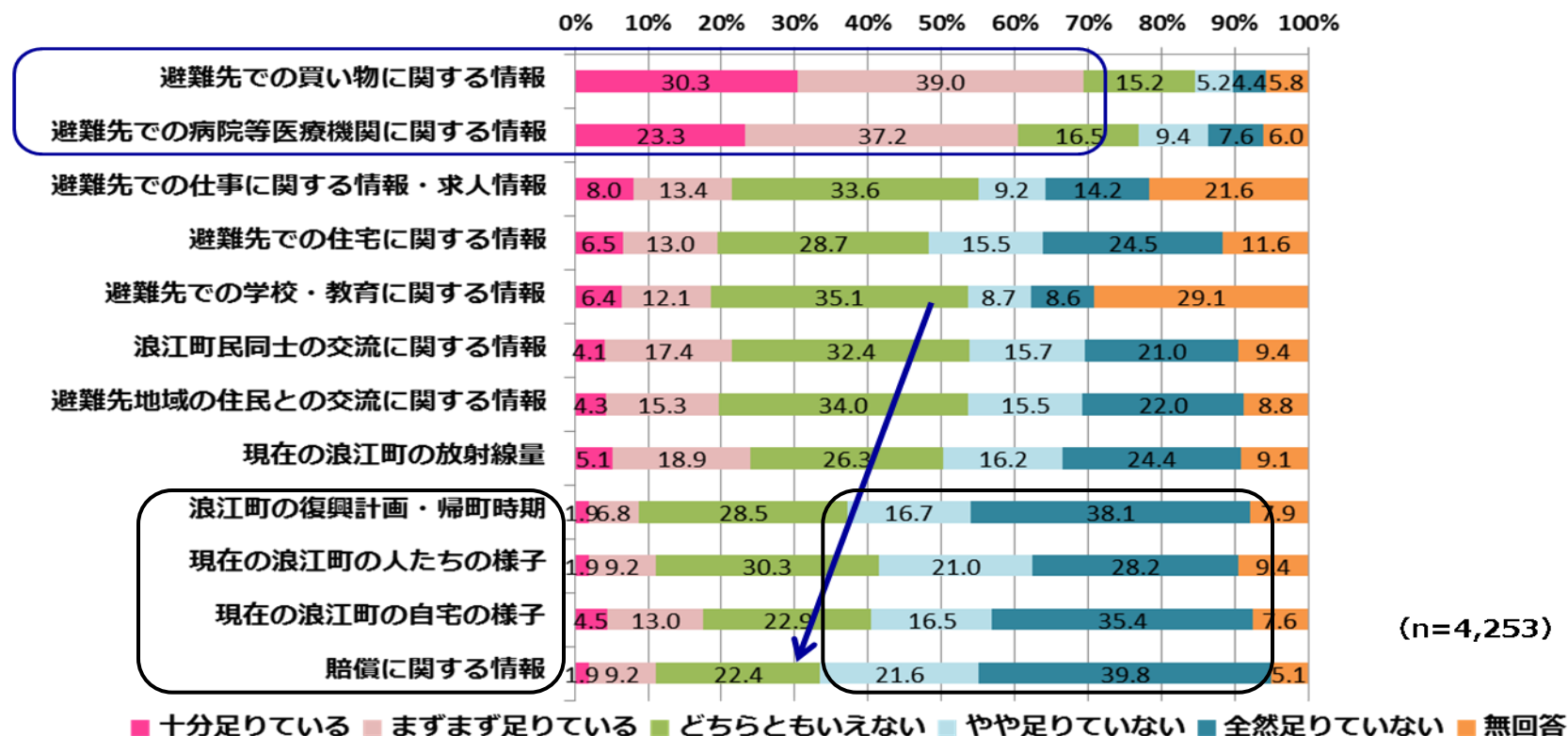
【仮説②】将来の生活設計を描くための情報が不足している

⇒仮説のとおり（「避難生活に関する情報の不足感」に関する分析より）

－買い物や医療機関など、避難先での日々の暮らしで必要な情報の不足感は小さい

－一方で、賠償や復興計画、浪江町の様子、浪江町民の様子の不足感が大きい

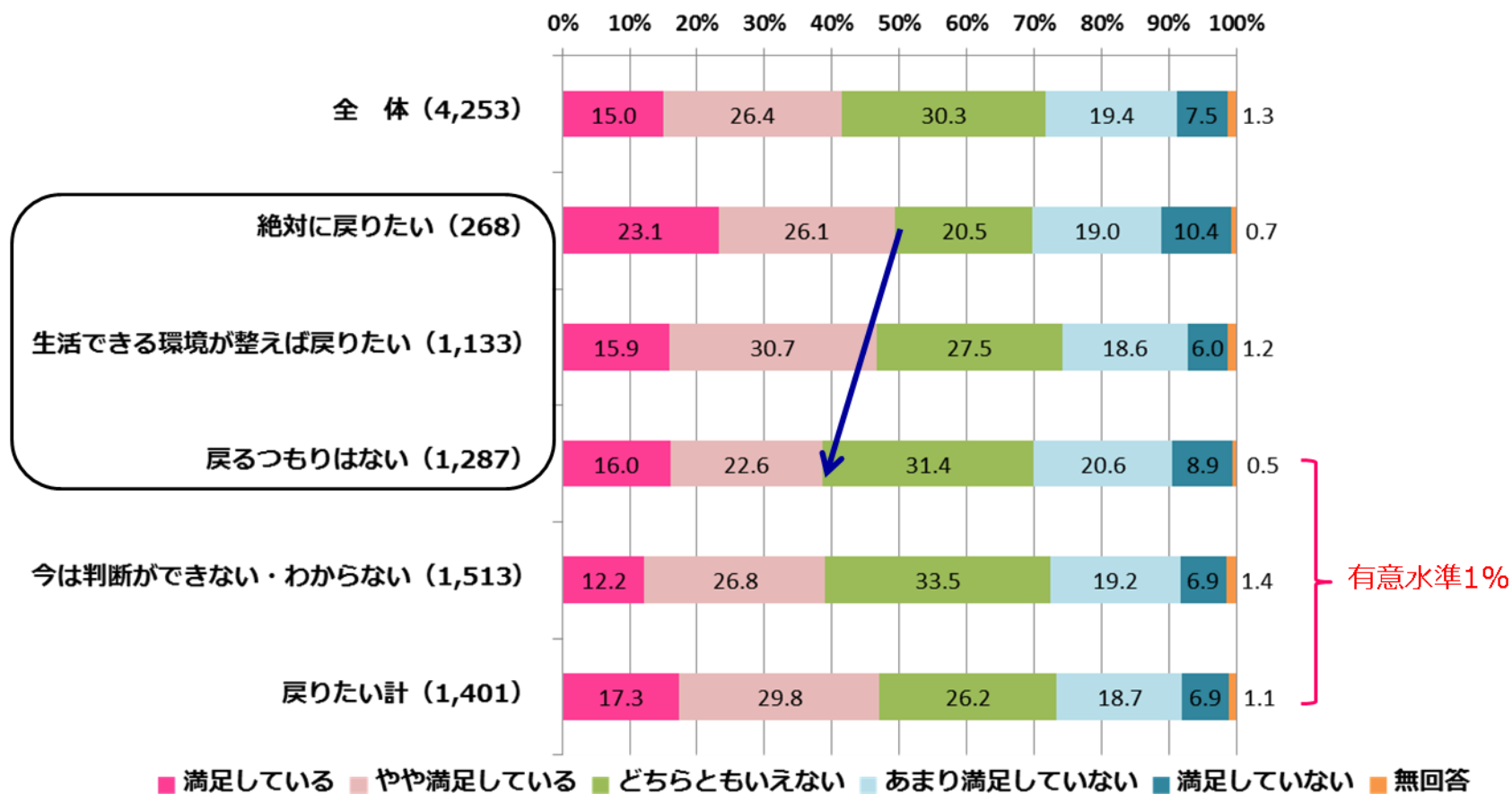
（問）現在の避難生活を送る上での情報について、足りていないと感じているものはありますか



4. アンケート調査による仮説の検証

【仮説③】 帰町意識が低い人ほど情報収集にも消極的で、情報満足度が低い
 ⇒仮説のとおり（「帰町意識別の情報満足度」に関する分析より）
 - 帰町意思が強い方ほど、情報満足度は高い

(問) 浪江町役場からの情報提供にどの程度満足していますか

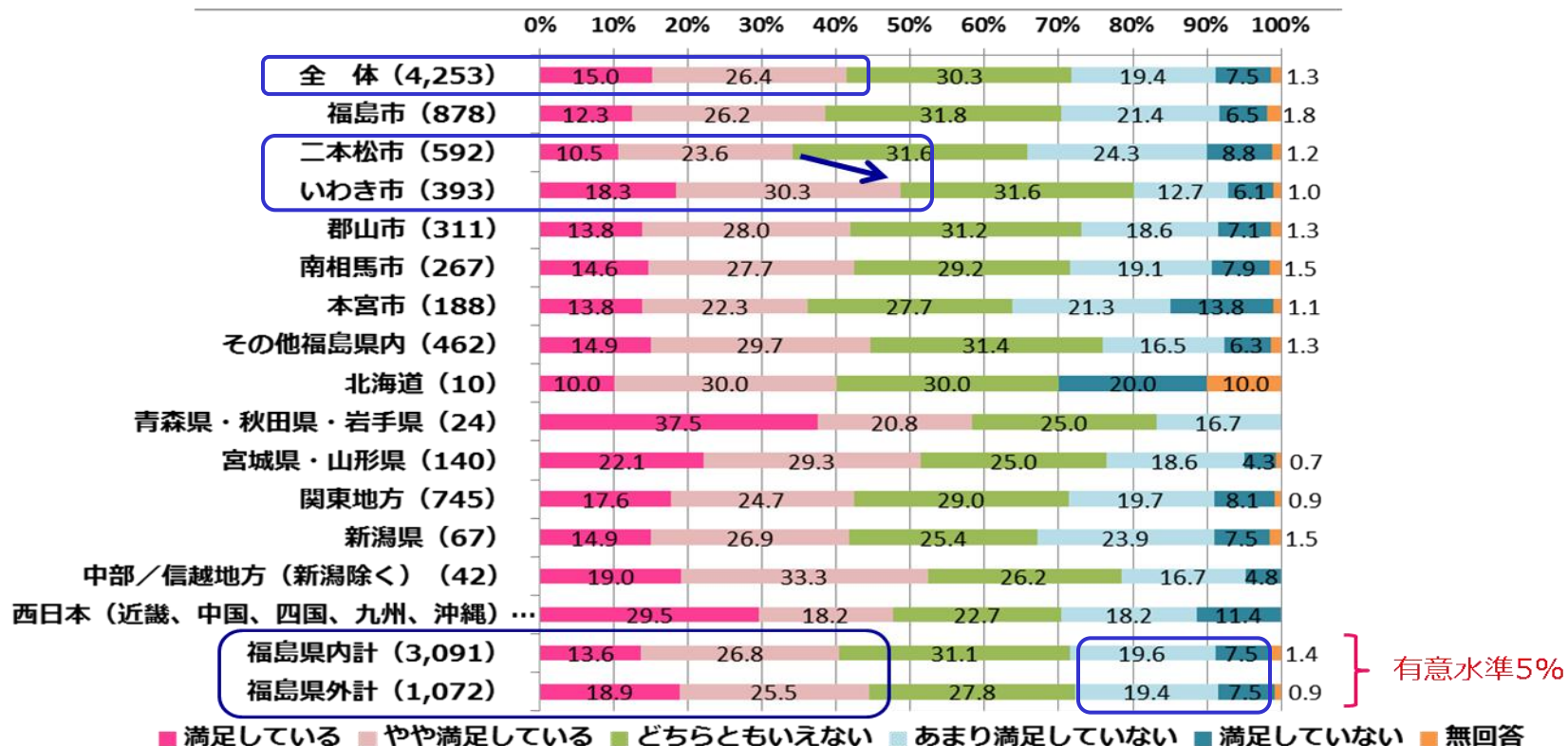


4. アンケート調査による仮説の検証

【仮説④】 県外避難者の方が県内避難者よりも情報満足度が低い（県外避難者は関心が薄い）
 ⇒仮説とは異なる結果（「避難地域別の情報満足度」に関する分析より）

- 全体における満足の割合は41.4%、満足していない割合は27%
- 満足の割合は福島県内・県外共に4割であり大きな差はない。また、満足していないも同率
- 県内では、二本松市の満足の割合が最も低く（34.1%）いわき市が最も高い（48.6%）

(問) 浪江町役場からの情報提供にどの程度満足していますか

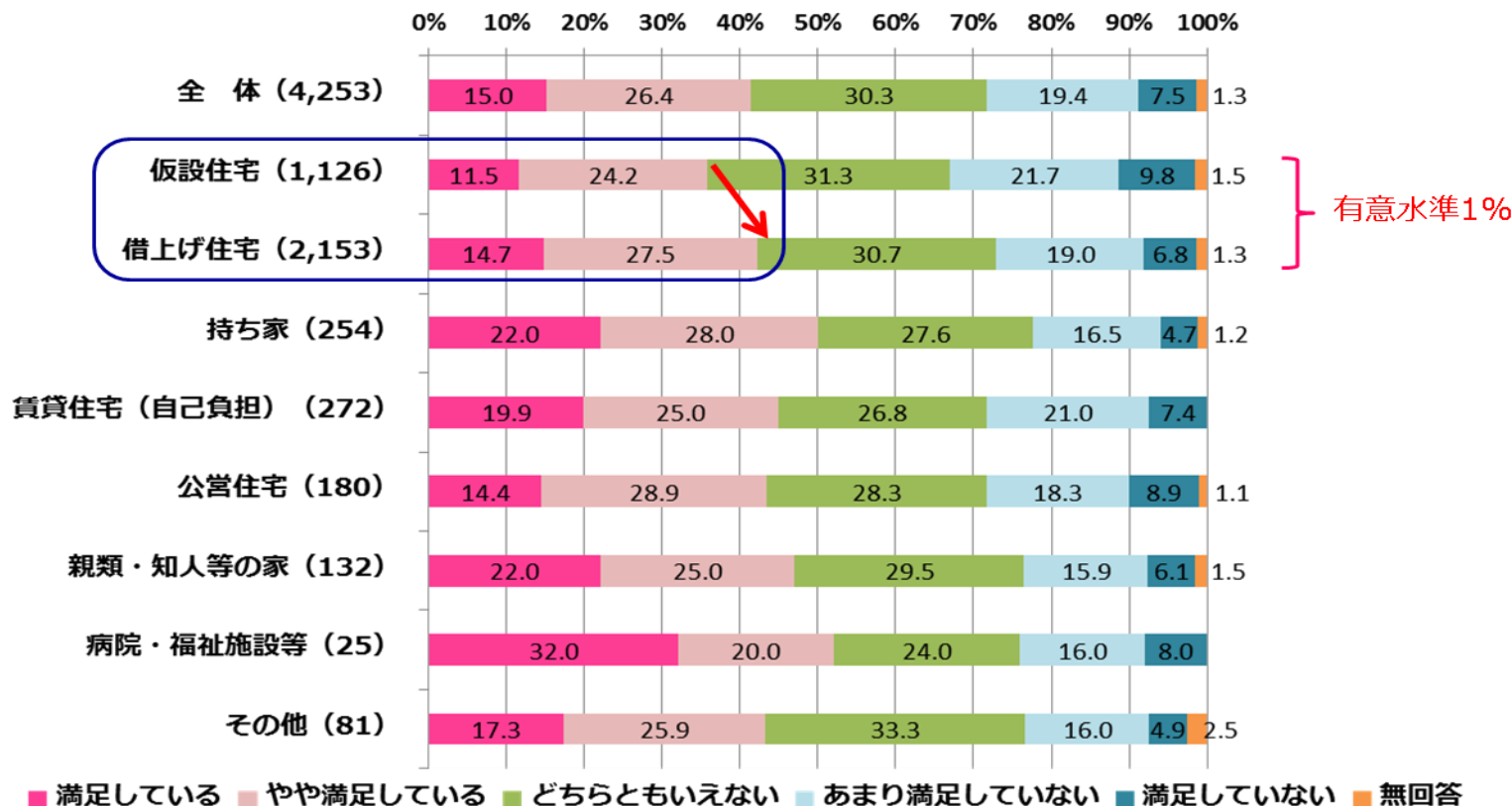


4. アンケート調査による仮説の検証

【仮説⑤】借上住宅居住者は仮設住宅居住者よりも情報に触れる機会が少なく、情報満足度が低い
 ⇒仮説とは異なる結果（「住居形態別の情報満足度」に関する分析より）

－住居形態における情報満足度は、情報共有しやすいと考えられていた仮設住宅（35.8%）よりも、情報提供に問題があると考えていた借上住宅（42.2%）の満足度が高い

（問）浪江町役場からの情報提供にどの程度満足していますか



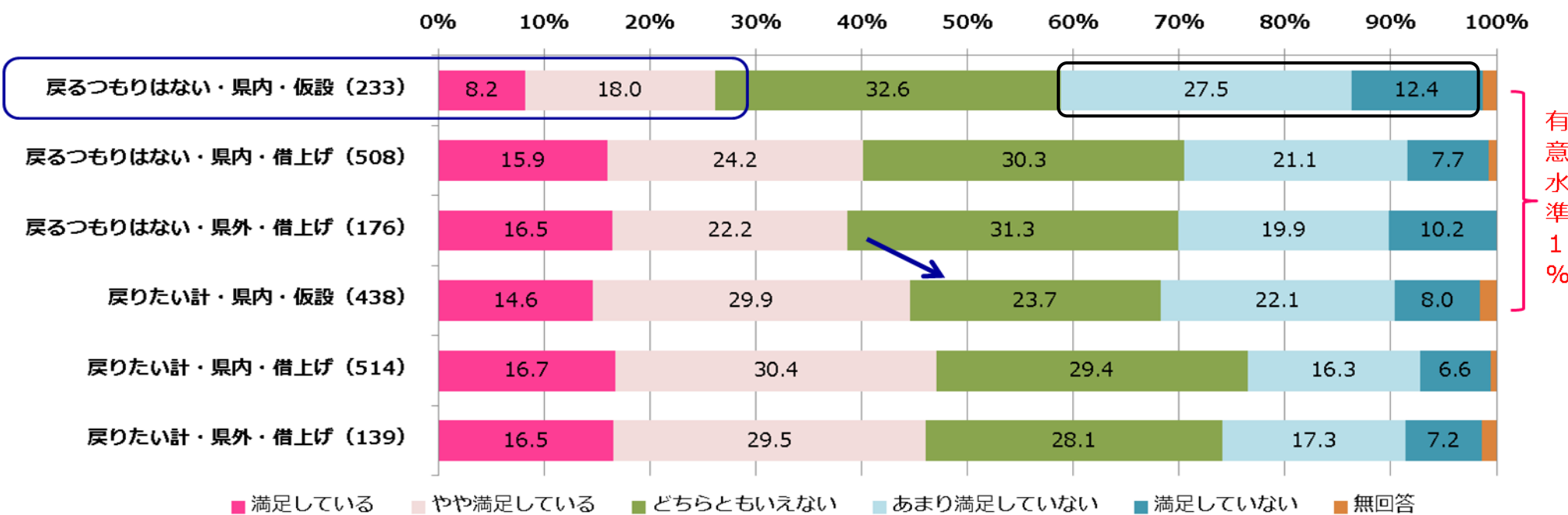
4. アンケート調査による仮説の検証

【仮説④、仮説⑤に関する考察】「なぜ、仮説と異なる結果となったのか？」

⇒（「帰町意識・避難地域・住居形態の組み合わせ情報満足度」に関する分析より）

- 帰町意識が高いと、情報満足度は高い
- 帰町意識が高いと、居住地域や居住形態でさほど情報満足度に差はない
- 「帰町意識が低く、かつ県内仮設に住んでいる人」は特に情報満足度が低く、不満度も高い
⇒この層が県内、仮設居住者の情報満足度を下げていると思われる

(問) 浪江町役場からの情報提供にどの程度満足していますか



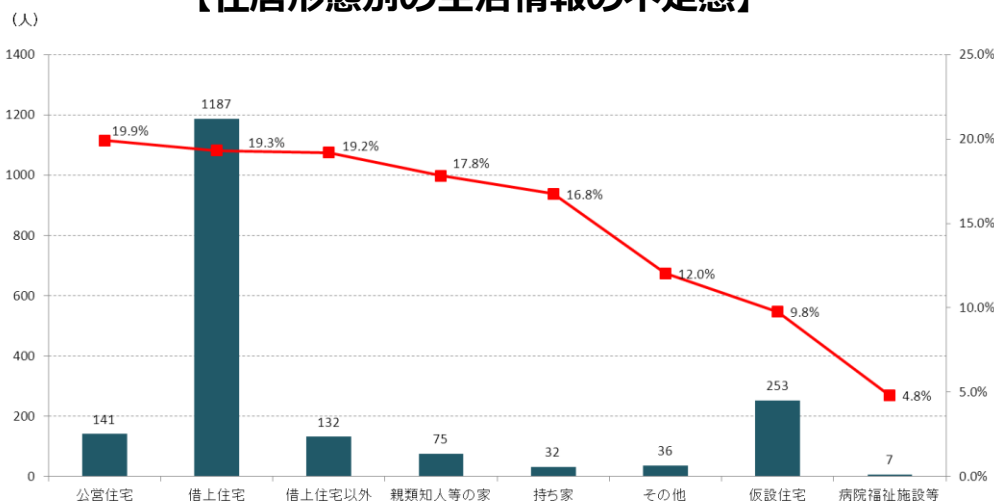
4. アンケート調査による仮説の検証

【前回アンケート調査（H24.6）との比較について】

前回アンケートでは、借上住宅居住者，県外避難者の方が、仮設住宅居住者，県内避難者に比べて「生活情報の不足」を強く感じるとの結果が出ており、今回調査結果とは逆の傾向になっている。この理由としては次のものが考えられる。

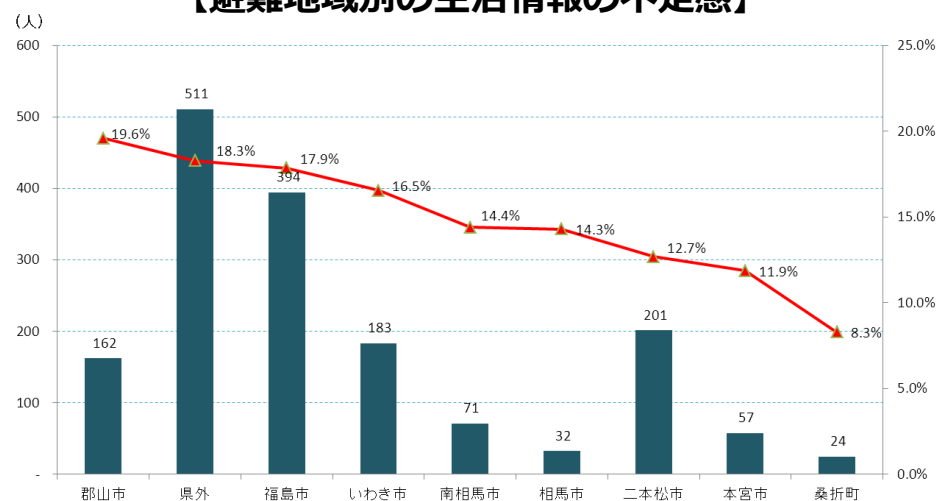
- (1) 前回調査からほぼ1年を経過して、仮説①のとおり、生活する上での情報不足は解消されている
- (2) 今回アンケートにおいては「役場からの情報」に関する満足度を聞いており、仮設住宅居住者については仮設住宅居住者間での情報交換を日常的に行っている等から、役場から提供される情報に対して評価が厳しくなっていると思われる
- (3) 県内避難者についても上記(2)と同様、日常的に県内情報に接していることから、役場からの情報に対して評価が厳しくなっていると思われる

【住居形態別の生活情報の不足感】



※割合は、「住居形態毎の全住民に占める割合」を示す。

【避難地域別の生活情報の不足感】



※割合は、「避難先毎の全住民に占める割合」を示す。

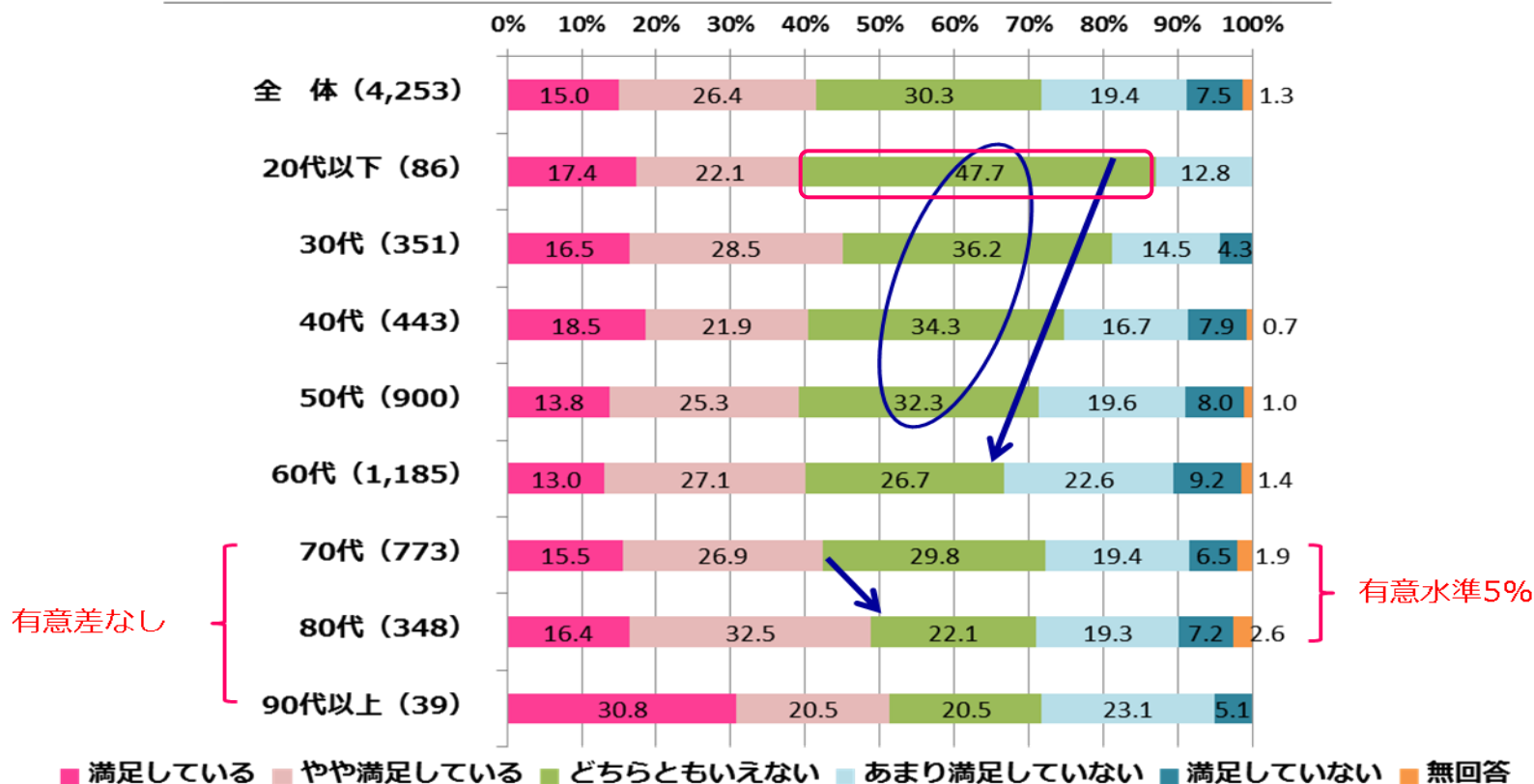
4. アンケート調査による仮説の検証

【仮説⑥】 ITを使えない高齢者の満足度は低い（ITを使える若い世代は満足度が高い）

⇒仮説とはやや異なる結果（「世代別の情報満足度」に関する分析より）

- 満足していない割合は、40代以上において比較的高い
 - どちらともいえない割合が、若い世代ほど多い（特に20代以下の回答では約半数を占める）
- ⇒若い世代が浪江町に対する関心を失ってきていることに起因するとすれば対策が必要

（問） 浪江町役場からの情報提供にどの程度満足していますか



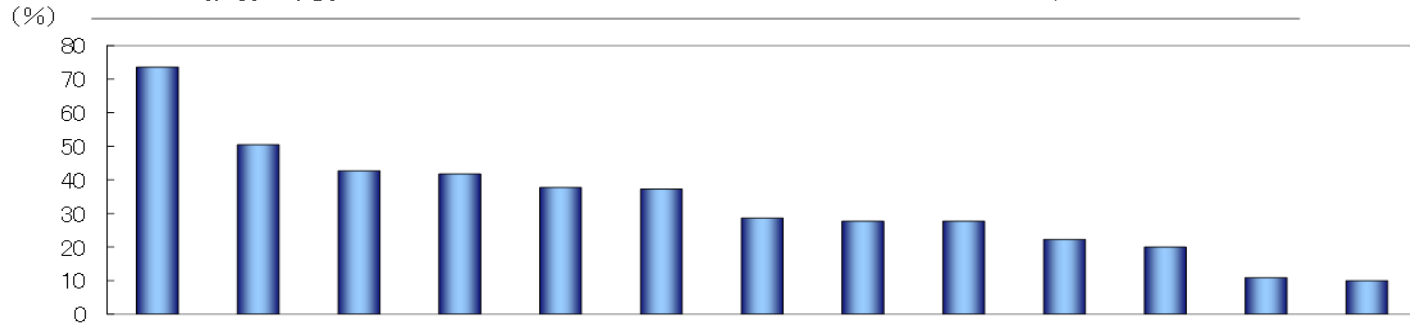
4. アンケート調査による仮説の検証

【仮説⑥に関する考察】「なぜ、年齢の若い人ほど『どちらともいえない』の割合が高いのか？」

⇒（「性・年代別の生活意識」に関する分析より）

－20代以下の回答者は、「いつまでも浪江町民でありたい」の割合が低く、その一方「ある程度生活再建はできている」の割合が相対的に高いことから、浪江町への関心が低くなってきていると思われる

(問) 現在の気持ちに近いと思われることを選んでください。



| | | (n) | 困っている | 見つけ直しをしよう | 浪江町民でありたい | 住居や待遇について | 様々な不透明事項の検討 | 知られていない情報が | 避難している地域の住民 | 社会や世間から感じ | 同じ境遇の人と | 誰にも心を開いて | 情報源が少なく | ある程度生活再建は | 浪江町で困っている | 無回答 |
|-------|-------|----------|-------|-----------|-----------|-----------|-------------|------------|-------------|-----------|---------|----------|---------|-----------|-----------|-----|
| 【性別】 | 全体 | (n=4253) | 73.7 | 50.6 | 42.9 | 41.7 | 37.9 | 37.2 | 28.6 | 27.8 | 27.6 | 22.2 | 20.2 | 11.1 | 9.8 | 3.0 |
| | 男性 | (n=2191) | 76.1 | 48.6 | 42.2 | 42.7 | 41.4 | 38.7 | 26.5 | 27.1 | 24.9 | 19.8 | 23.1 | 12.7 | 11.5 | 1.7 |
| | 女性 | (n=1970) | 73.1 | 54.4 | 44.9 | 42.2 | 35.1 | 36.7 | 31.8 | 29.5 | 31.4 | 25.5 | 17.6 | 9.8 | 8.3 | 1.3 |
| 【年代別】 | 20代以下 | (n=86) | 55.8 | 44.2 | 26.7 | 38.4 | 37.2 | 50.0 | 32.6 | 30.2 | 29.1 | 19.8 | 22.1 | 24.4 | 8.1 | 2.3 |
| | 30代 | (n=351) | 70.1 | 58.1 | 35.0 | 44.7 | 43.3 | 45.3 | 31.6 | 38.2 | 28.2 | 21.9 | 19.7 | 16.0 | 6.0 | 1.1 |
| | 40代 | (n=443) | 75.2 | 54.0 | 35.4 | 48.1 | 50.1 | 51.7 | 32.5 | 37.2 | 21.0 | 25.3 | 21.7 | 13.1 | 6.3 | 0.5 |
| | 50代 | (n=900) | 75.3 | 56.1 | 37.0 | 46.9 | 46.7 | 44.3 | 32.7 | 28.0 | 21.7 | 22.8 | 22.6 | 10.7 | 7.8 | 0.9 |
| | 60代 | (n=1185) | 75.9 | 52.4 | 42.6 | 44.4 | 38.0 | 35.5 | 26.1 | 28.9 | 24.4 | 22.4 | 20.4 | 11.6 | 8.6 | 1.4 |
| | 70代 | (n=773) | 78.4 | 48.6 | 55.5 | 37.6 | 27.6 | 27.9 | 29.1 | 20.1 | 35.8 | 22.5 | 18.1 | 9.2 | 13.5 | 1.4 |
| | 80代 | (n=348) | 71.6 | 35.1 | 60.6 | 29.0 | 25.0 | 22.4 | 22.1 | 24.7 | 45.7 | 19.0 | 19.8 | 7.2 | 20.1 | 4.6 |
| | 90代以上 | (n=39) | 59.0 | 30.8 | 46.2 | 20.5 | 17.9 | 20.5 | 15.4 | 25.6 | 41.0 | 12.8 | 12.8 | 12.8 | 25.6 | 5.1 |

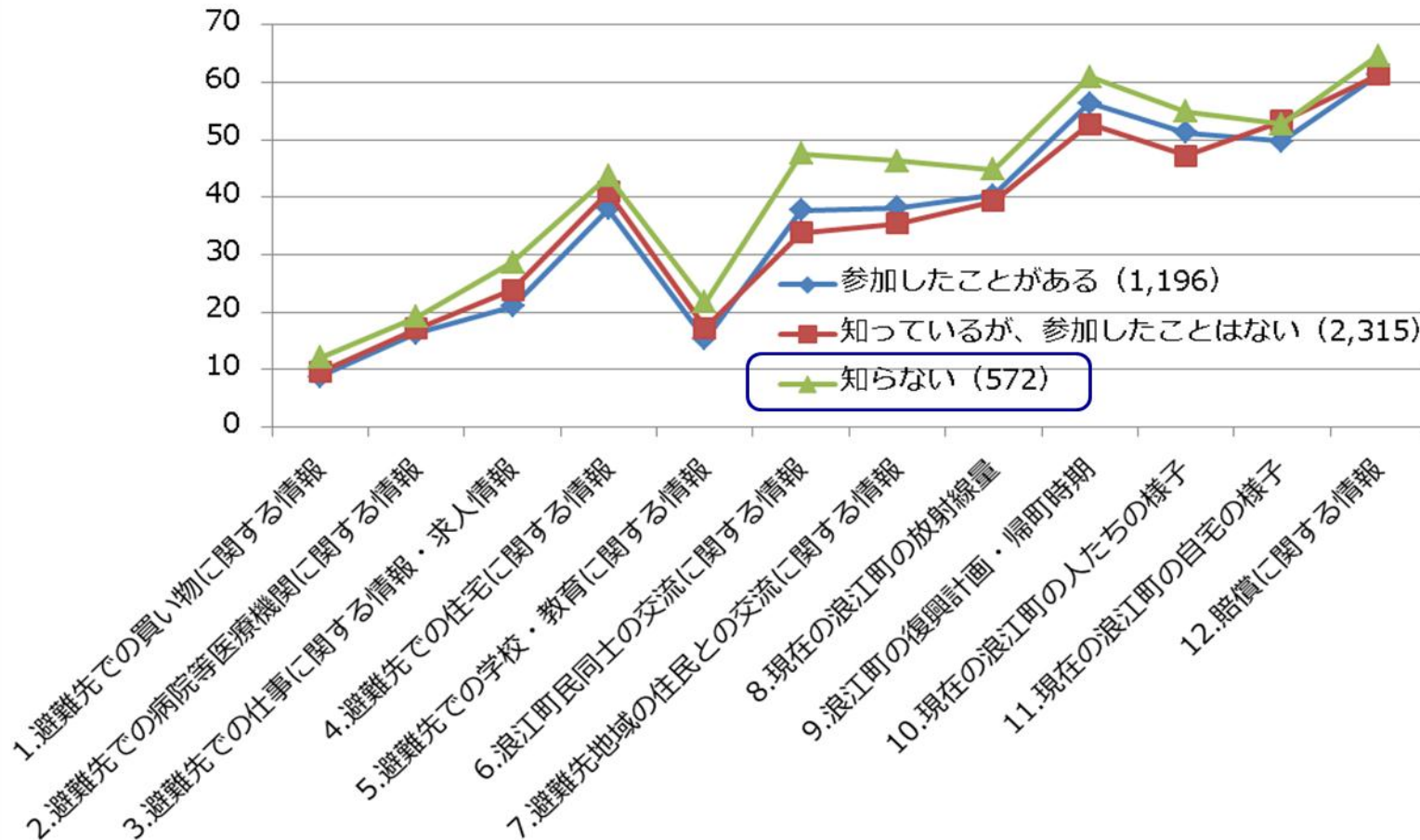
注) 網掛けは「全体」より5ポイント以上差があるスコア

4. アンケート調査による仮説の検証

【仮説⑦】 町民交流会に参加しない人は対面での情報収集機会に乏しく、情報不足を感じる
 ⇒仮説のとおり（「浪江町民の交流会への参加状況別の情報不足感」に関する分析より）

－ 交流会を知らない人は、住民交流以外の情報についても不足感が高い

（問）現在の避難生活を送る上での情報について、足りていないと感じているものはありますか

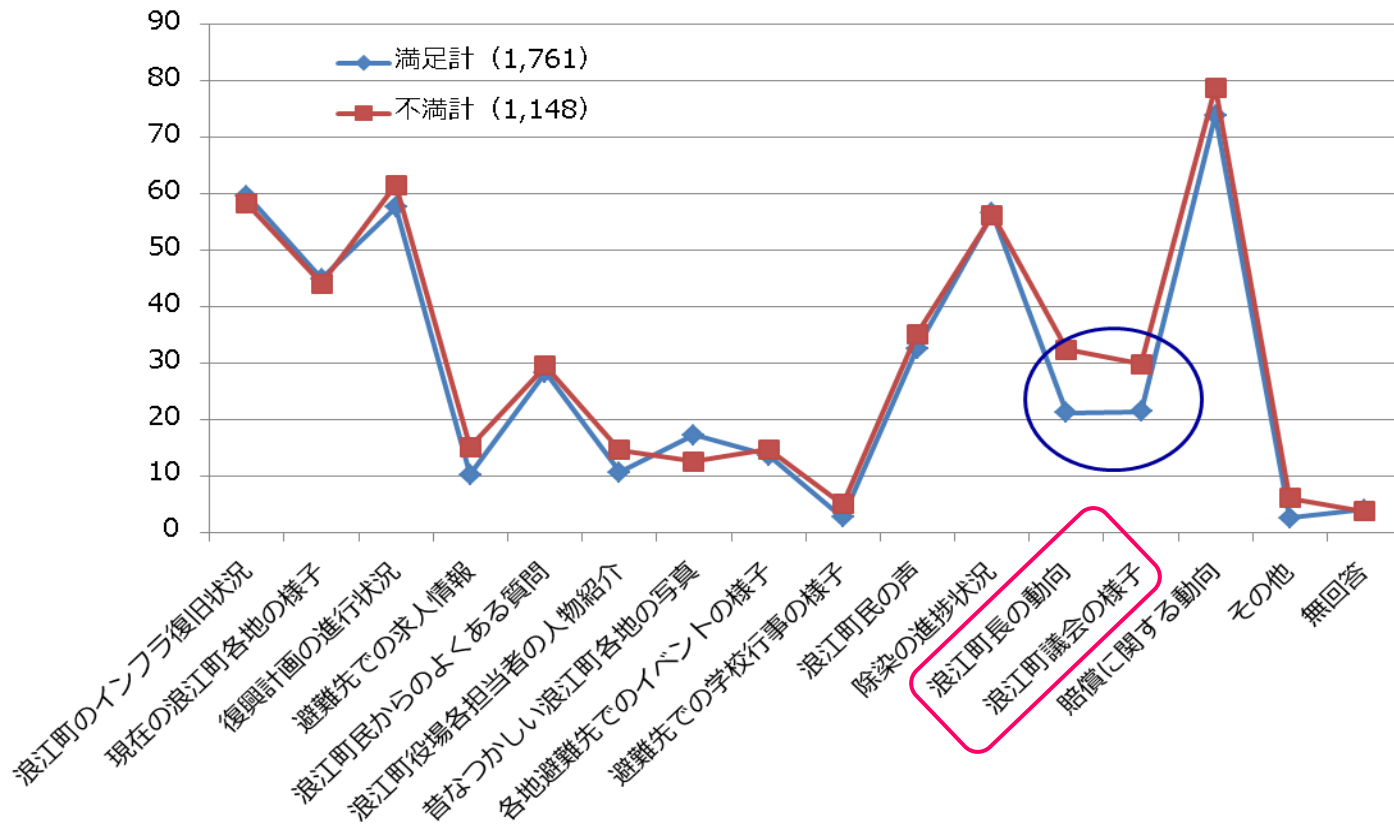


4. アンケート調査による仮説の検証

【仮説⑧】自治体からの情報は結果のみで、そこに至る過程の説明がないことに不足感がある
⇒仮説のとおり（「情報満足度別の提供希望情報」に関する分析より）

- 「町長の動向」や「議会の様子」で情報提供に満足と不満の人とのギャップが大きい
→より今後の町の決定のプロセスを知りたがっていると思われる

(問) 浪江町役場から提供してほしい情報はありますか



4. アンケート調査による仮説の検証

【仮説⑨】（全般的に）帰町意識が低下している

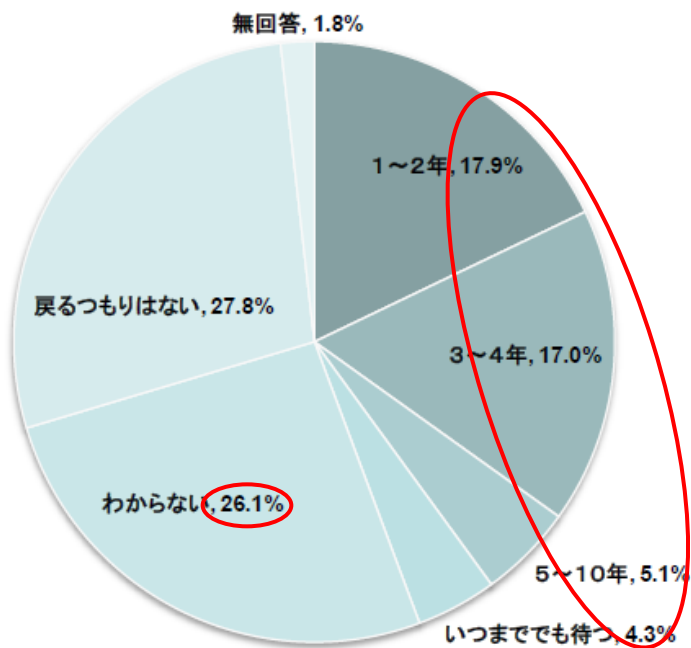
⇒仮説のとおり（「浪江町への帰町意識」に関する分析より）

－前回調査（H24.6）に比べて、「浪江町に戻りたい」の回答が低下（44.3%→32.9%）し、「わからない」の回答が増加（26.1%→35.6%）。

→帰町意識の低下とともに、先行きへの不安、不透明感が増していると思われる

【（今回）平成25年7月調査】

【（前回）平成24年6月調査】



| | | （%） | | | | | 戻りたい計 |
|-------|--------------|---------|-----------------|----------|-----------------|-----|-------|
| | | 絶対に戻りたい | 生活できる環境を整えば戻りたい | 戻りつもりはない | 今は判断ができない・わからない | 無回答 | |
| | 全体 (n=4253) | 6.3 | 26.6 | 30.3 | 35.6 | 1.2 | 32.9 |
| 【性別】 | 男性 (n=2191) | 8.1 | 30.4 | 27.7 | 32.9 | 0.9 | 38.6 |
| | 女性 (n=1970) | 4.2 | 22.0 | 33.8 | 38.4 | 1.6 | 26.2 |
| 【年代別】 | 20代以下 (n=86) | 2.3 | 11.6 | 52.3 | 33.7 | 0.0 | 14.0 |
| | 30代 (n=351) | 2.3 | 10.5 | 49.3 | 37.3 | 0.6 | 12.8 |
| | 40代 (n=443) | 2.9 | 15.1 | 42.7 | 37.2 | 2.0 | 18.1 |
| | 50代 (n=900) | 4.2 | 22.3 | 33.3 | 38.8 | 1.3 | 26.6 |
| | 60代 (n=1185) | 5.5 | 29.1 | 28.1 | 36.4 | 0.9 | 34.6 |
| | 70代 (n=773) | 10.1 | 38.6 | 18.9 | 31.3 | 1.2 | 48.6 |
| | 80代 (n=348) | 13.8 | 38.2 | 17.0 | 29.6 | 1.4 | 52.0 |
| | 90代以上 (n=39) | 17.9 | 25.6 | 23.1 | 33.3 | 0.0 | 43.6 |

5. 本調査のまとめ 及び 課題

()内は22頁
での参照箇所

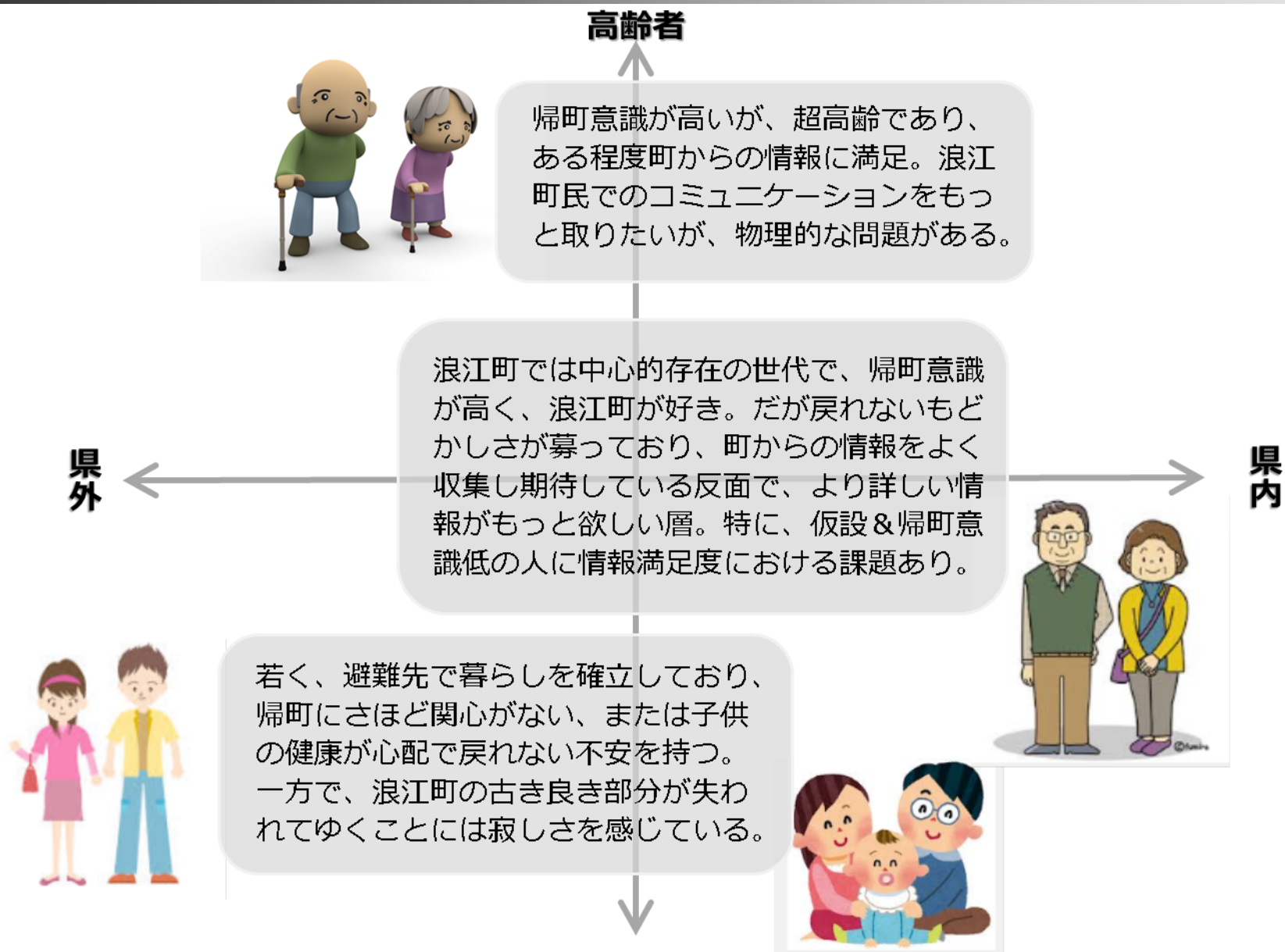
- 帰町意識：
 - ・ 年齢が高いほど高い。他方、子供の年齢が低いほど低い
 - ・ 全般的な帰町意識の低下が見られる
- 役場からの情報提供への満足度
 - ・ 年齢が上がるほど不満（60代が最も多い）、満足は年齢による差異があまりない
 - ・ 若年層ほど「どちらともいえない」が多い
 - 若年層ほど役場からの情報自体へ関心が低い可能性（①）
 - ・ 県外居住者、借上げ居住者、帰町意識が高い避難者、ネット利用者ほど満足
 - 前回調査（平成24年6月）の生活情報満足度は、借上げ<仮設、県外<県内
 - ・ 今回調査では震災後の生活情報不足は一段落し、浪江町役場に近い距離にある人々（仮設居住者、県内避難者）で役場からの情報提供への不満が相対的に強まっている
 - 一方で上記以外の方は浪江町への関心が低くなっている（②）
 - ・ 満足な人の割合の順：帰町意識高い > 帰町意識低い&借上げ > **帰町意識低い&仮設**
- 不足している情報・欲しい情報
 - ・ 買い物や医療など避難生活に必要な今では情報はほぼ足りている
 - ・ 賠償、復興計画、浪江の現状、現在の町民の様子に関する情報がもっと欲しい（③）
 - ・ 特に賠償や復興計画に関する情報は、その検討プロセスをより知りたがっている（④）

5. 本調査のまとめ 及び 課題

()内は22頁
での参照箇所

- フォトビジョン
 - ・ ネットを使わない高齢世代ほど利用している
 - ・ 持っていない・知らない人が3割程度いる (⑤)
- 町民交流会：
 - ・ 年齢が高いほど参加している（70代が最も多い）
 - ・ 借上げ住宅居住者、帰町意識が高い人ほど参加している
 - ・ 若い人は都合があわず、高齢者は交通手段がなくて参加を断念している人がいる (⑥)
- 連絡相手・頻度・手段
 - ・ 浪江町で近所だった方とは4割以上が、現在、連絡を取っていない
 - ・ 県外避難者、帰町意識が低い人ほど昔近所だった方と連絡をとっていない (⑦)
 - ・ 若い人ほど、メール・メッセージアプリ・SNSを利用している
- 現在の気持ち
 - ・ 県外避難者、借上げ居住者ほど、取り残されている不安感や猜疑心が見られる (⑧)
 - ・ 交流会参加者ほど前向きな気持ちが見られる
- その他（自由回答など）
 - ・ （福島県外への避難者で）福島の地元紙（福島民友、福島民報）を読みたいとのニーズが多い (⑨)

6. 調査結果からの考察（世代別意識の差異）



7. 調査結果に基づく課題解決のためのご提案

本調査結果に基づく浪江町役場殿へのご提案（案）

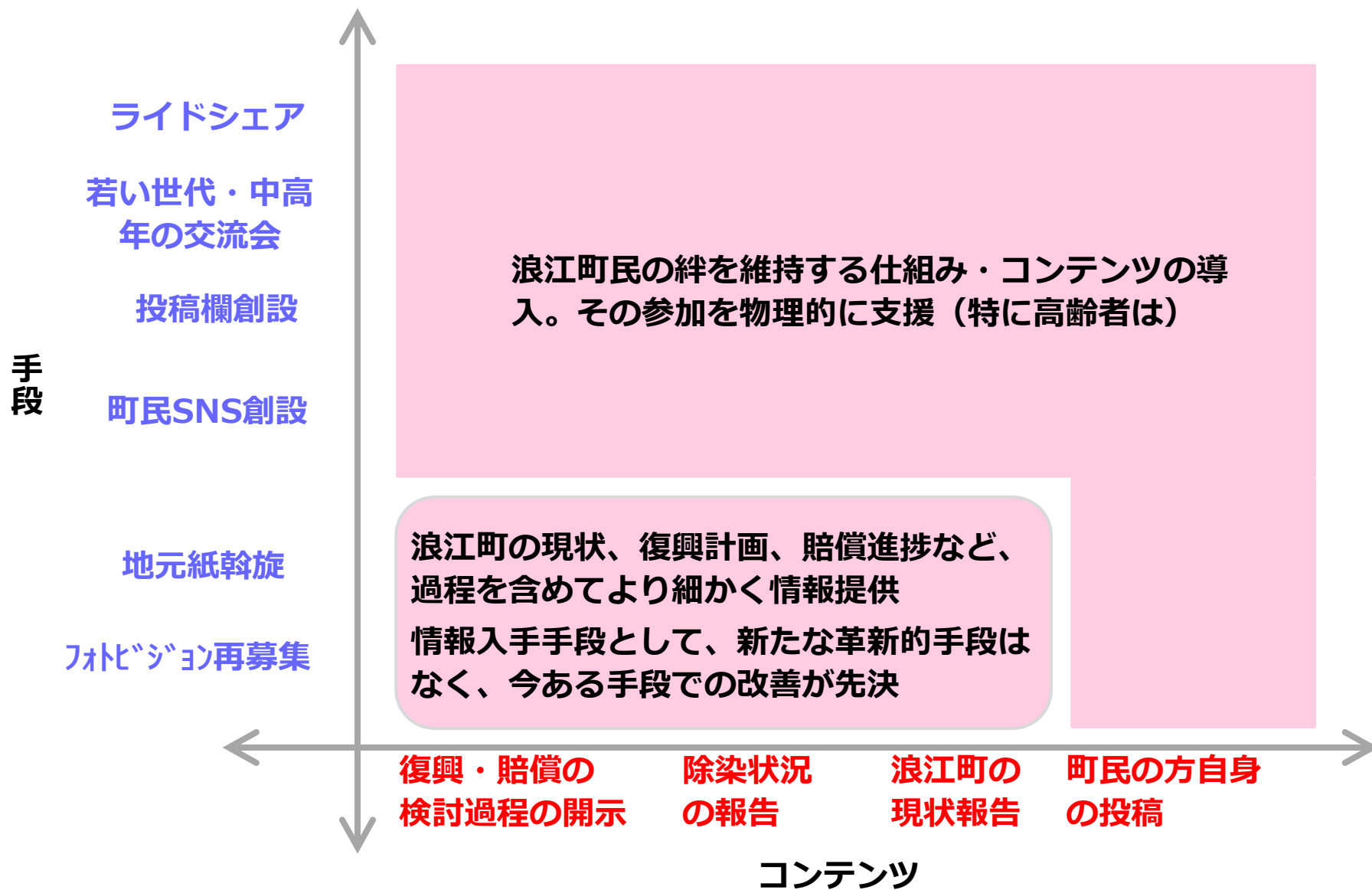
頁19～20
該当項目

■ 役場からの提供情報の充実

- 1. 町の復興や賠償に係る議会の検討過程の開示 ← 【④】
- 2. 浪江町の除染状況の定期報告 ← 【③】
- 3. 浪江町の現状（インフラ、自宅等）の定期報告 ← 【③】

■ 町民間のコミュニケーションツール及び交流の場の拡充

- 4. 若い世代を中心とした浪江町SNSの立ち上げ
（若い世代の交流の手段や機会が乏しい） ← 【①⑥⑦⑧】
- 5. 町民の方自身が自分の現況を報告できる投稿欄の創設
（手紙、ビデオレターを広報誌、HPに掲載） ← 【③⑧】
- 6. フォトビジョン希望者の再募集、再配布 ← 【⑤】
- 7. 県外避難者への地元紙（福島民友、福島民報）購入の斡旋、仲介 ← 【⑨】
- 8. 交流会参加希望者へのライトシェア（相乗り）の紹介（ボランティア募集） ← 【⑥】
- 9. 若い世代（10～30代）や中高年（40～50代）対象の交流会開催 ← 【①】



8. 浪江町の復興に向けた施策に関する示唆

インタビューした有識者

| 日時 | 2013年8月7日 | 2013年8月21日 | 2013年8月30日 |
|--------|---|--|--|
| 氏名 | 渡 和由 氏  | 砂川 肇 氏  | 津田 大介 氏  |
| 所属・役職 | 筑波大学 准教授 | (株)コンセプト 代表取締役社長 | ジャーナリスト/ メディア・アクティビスト |
| プロフィール | 環境デザイナー／サイトプランナー。総合的なデザイン活動と「好かれつづけるまち」「歩きたくなるまち」の作りかたを研究している。筑波博覧会、横浜博覧会、軽井沢タリアセンなどの会場計画と施設設計や、米国で住宅地、街路、ホテル、テーマパークなどランドスケープ・アーキテクチャ、サイトプランニング実務を行う。 | 日米のライフスタイル&ビジネス動向を比較研究しトレンド発信するシンクタンク。多彩なニュービジネスのコンセプト立案・実施を企業と協働。離島等の地域振興に係るコンサルも多数手掛けている。主著に、『ビジネス・トレンドの予報学』『ライフスタイルの解剖学』『アメリカン・ライフスタイル』『「トレンド情報」活用術』など。 | メディア、ジャーナリズム、IT・ネットサービス、コンテンツビジネス、著作権問題などを専門分野に執筆活動を行う。現在、「福島第一原発観光地化計画」の中心メンバーとして活動。主著に、『ウェブで政治を動かす!』『動員の革命』『情報の呼吸法』『Twitter社会論』『未来型サバイバル音楽論』『チェルノブイリ・ダークツーリズムガイド』など。 |

有識者意見等を踏まえた浪江町の復興に資する中長期的な施策の示唆

1. 浪江町民間の絆の再生、浪江町への愛郷心の再醸成

- 10代の子供達を対象に浪江町の思い出をテーマに作文や絵画を募集し、展示会を開催
- 避難地域ごと（西日本にも拡充）の地域通信員を設けて、各地域の避難者の状況を定期報告
- 浪江町アーカイブの構築、運営（浪江町の歴史の確認と共有、外部への情報発信、町民の方のアクティブな参加及び外部からの集客にも期待）
- 浪江町民の福島第一原発事故時の避難状況の記録化（町民からの投稿やヒアリング）
- 福島第一原発事故前の浪江町の状況の記録化（町民からの投稿やヒアリング）
- 上記記録データ化（アーカイブに保存）と書籍化（紙媒体による町民や少しでも関心のある方への配布）
- 小中学生による浪江町復興へのアイデア募集とそれらを織り込んだ新生浪江町のイメージ図等の作成
- モバイルサテライトタウン（移動巡回車）による町民訪問（交流会のように来てもらうのではなく、こちらから出向いて行って交流を促す仕組み、他自治体での先行事例あり）

8. 浪江町の復興に向けた施策に関する示唆

2. 浪江町以外の外部の人たちとの復興に向けた連携促進、外部への発信力の強化
- ▶ 浪江町に関心のある浪江町民以外の方を対象にした浪江町見学会の実施（既に自主的に実施している人たちがいるが、行政の立場からも推進し、記憶を風化させないことが肝要）
 - ▶ 浪江町民を対象にした浪江町の名所見学会の実施（自宅にしか戻らない人やまだ帰宅できない人に町を再認識してもらう）
 - ▶ 浪江町町民と浪江町に関心のある浪江町民以外の方が今後の浪江町について自由に語ることでできる交流サイトの設置
 - ▶ 浪江町に関する写真、映像を町民の皆さんから提供してもらう等により、「浪江町の過去と現在」をテーマにした記録映画を作成
 - ▶ 浪江町がどんなによい町だったか、福島第一原発事故時の避難がどんなものだったか等を浪江町以外の人たちに語れるインタープリター（語り部）の育成

3. その他

- ▶ 浪江町以外の被災地域の自治体等の取り組み事例の収集とその実施に関する検討（阪神大震災や中越沖地震等での事例を含めて収集）

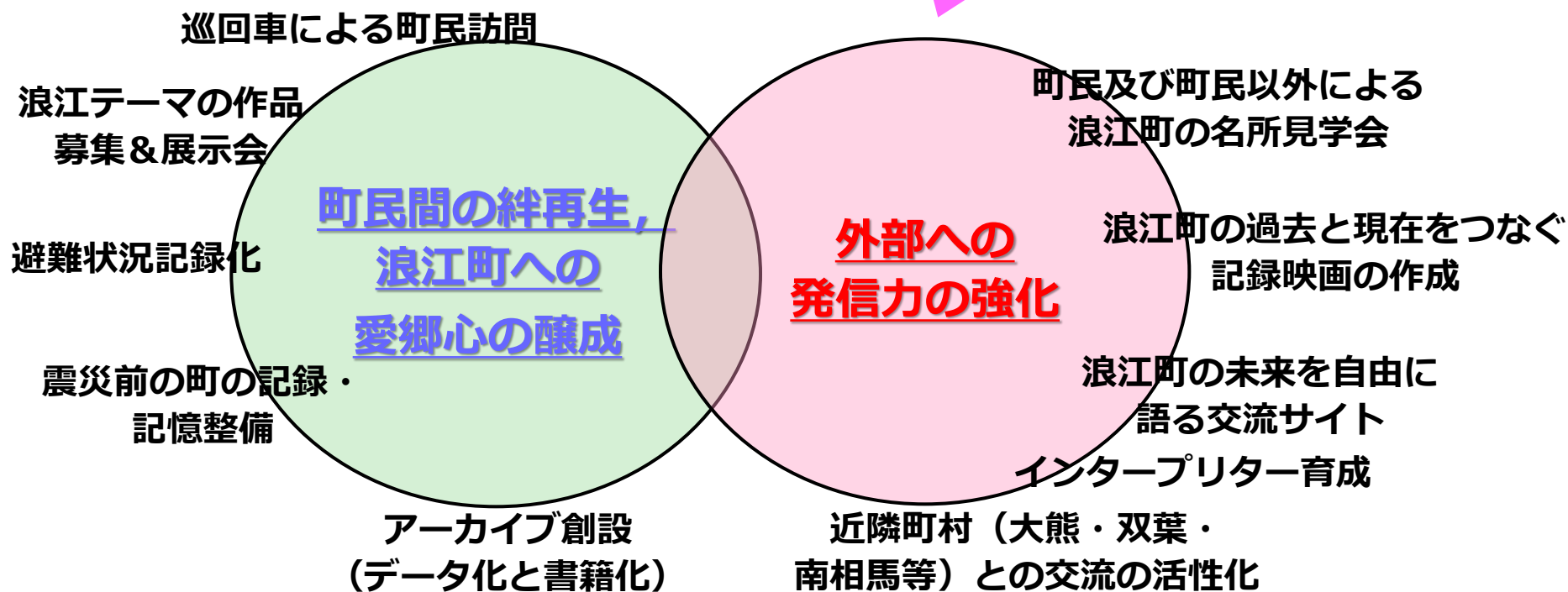
◆浪江町住民の現状への不満と将来への不安に対峙する2つの中長期的方向性 (案)

【目的】

町民の心のよりどころを通じた絆再生
町再興時のため体験・記憶を保管

【目的】

避難地域外の記憶の風化の防止
浪江町の良さの再発見とその発信



(参考) 浪江町における取組状況

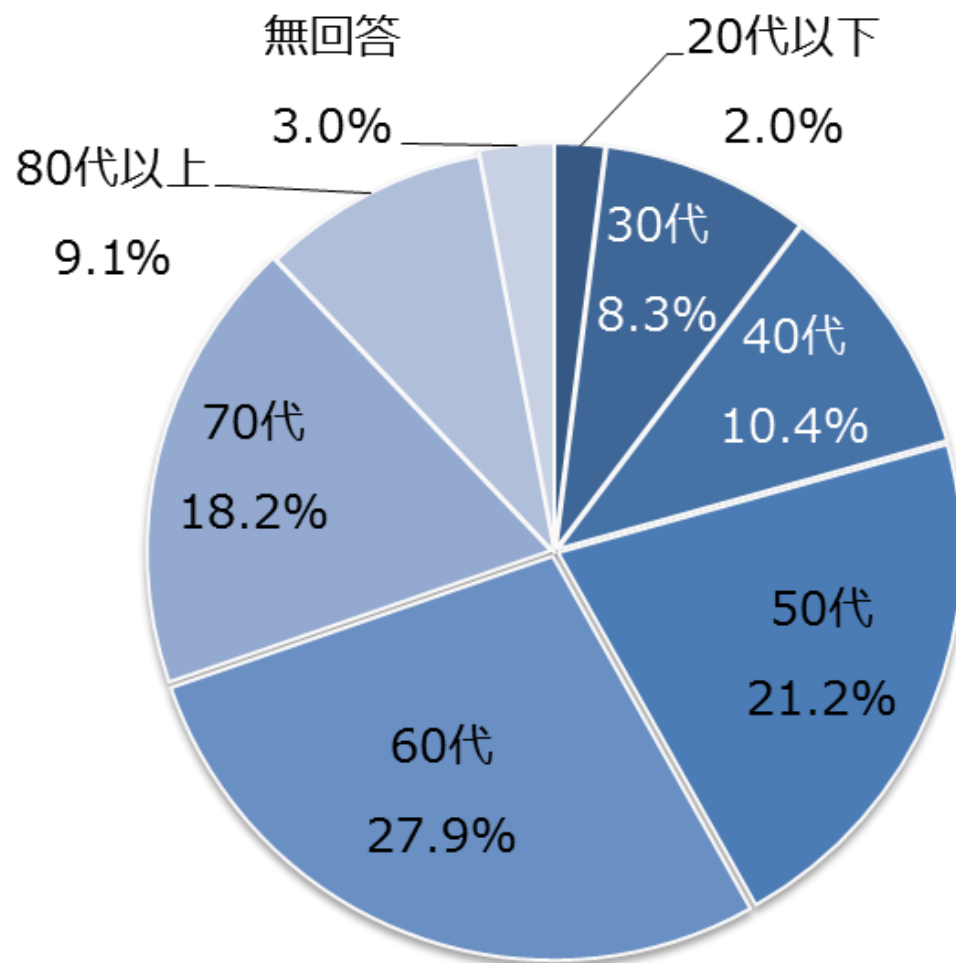
| 取組名 | 取組内容 | 参考URL |
|-------------------------|---|--|
| 福島民報・福島民友ダイジェスト版の送付 | 福島県より、地元紙（福島民報・福島民友）のダイジェスト版（見開き4ページ）を月2回送付している。 | http://www.cms.pref.fukushima.jp/download/1/yume2508_4-5.pdf |
| 福島民報・福島民友を福島県外避難先図書館に設置 | 各都道府県の一部図書館に福島民報・福島民友が週二回（3-4日分）届けられ、過去分含めて閲覧可能。 | http://library.pref.oita.jp/ken-to/information/announce/articles/20130819/ http://www.library.pref.chiba.lg.jp/information/all/post_9.html |
| 福島民報の県外送付 | 福島民報はひと月4,250円（送料込み）で県外に郵送配達できる。毎日発送され、1～2日遅れて購読することができる。 | http://www.minpo.jp/subscribe/yuso.php#head |
| 浪江小学校 ふるさとなみえ科 | 総合的な学習の時間を活用し、「ふるさとなみえ科」を立ち上げ、浪江町の伝統文化を学ぶ機会を設けている。町への愛着が薄れないようにとの思いから始められたもので、湯飲みや皿等を製作する大堀相馬焼体験を中心に据えた郷土の学習をしている。その成果を「なみえカルタ」にまとめて仮設住宅の人々に披露したり、劇やパネルにまとめて十日市祭で発表した際は浪江町民の方々に大変に喜ばれた。さらに、浪江町職員から浪江町復興計画の説明を受けてからは帰還後の町の話で盛り上がり、「未来の街なみえ」の立体模型を作成した。 | http://www.namies.jp/furusato_namie/index.html |
| なみえの子どもたちの想い | 平成24年1月に、浪江町の小学1年生から中学3年生の子どもたちに向けたアンケート調査。子どもたちがいつも感じていることや考えていることを、「浪江町復興ビジョン」の策定や、今後の行政運営の参考とするために「復興に関する子ども向けアンケート」を実施しました。 | http://www.quake-coop-japan.org/user/common/view?file_id=keiF20130612_1827 |
| ホールボディカウンターを積んだ巡回車の準備 | これまでは内部被ばく検査は二本松市まで来なければ実施できなかったが、ホールボディカウンターを積んだ巡回車が避難先を廻るようになった。 | 浪江町役場担当者より説明あり |
| 役場担当者による浪江町の案内 | 外部からの視察希望者（政治家・自治体職員等）に対し、役場担当者が避難区域内を案内している。 | http://sankei.jp.msn.com/affairs/news/130530/dst130530_18220008-n1.htm |
| 震災体験のヒアリング | 早稲田大学法科学生により役場職員全員に震災体験のヒアリングを実施。一般の方についてもなんとか記録に残したいとのこと。 | http://www.waseda.jp/law-school/jp/alumini/tohmon/pdf/NewsletterNo11.pdf |
| 浪江町の記録映画 | 浪江町ご当地アイドルNYTS（ナイツ）が主演の映画企画は既にあり、良いシナリオもできている。ぜひ映画化したいのだが、あとは資金（スポンサー）の問題。復興予算の利用も検討し始めたところ。 | 浪江町役場担当者より説明あり |

【ご参考】

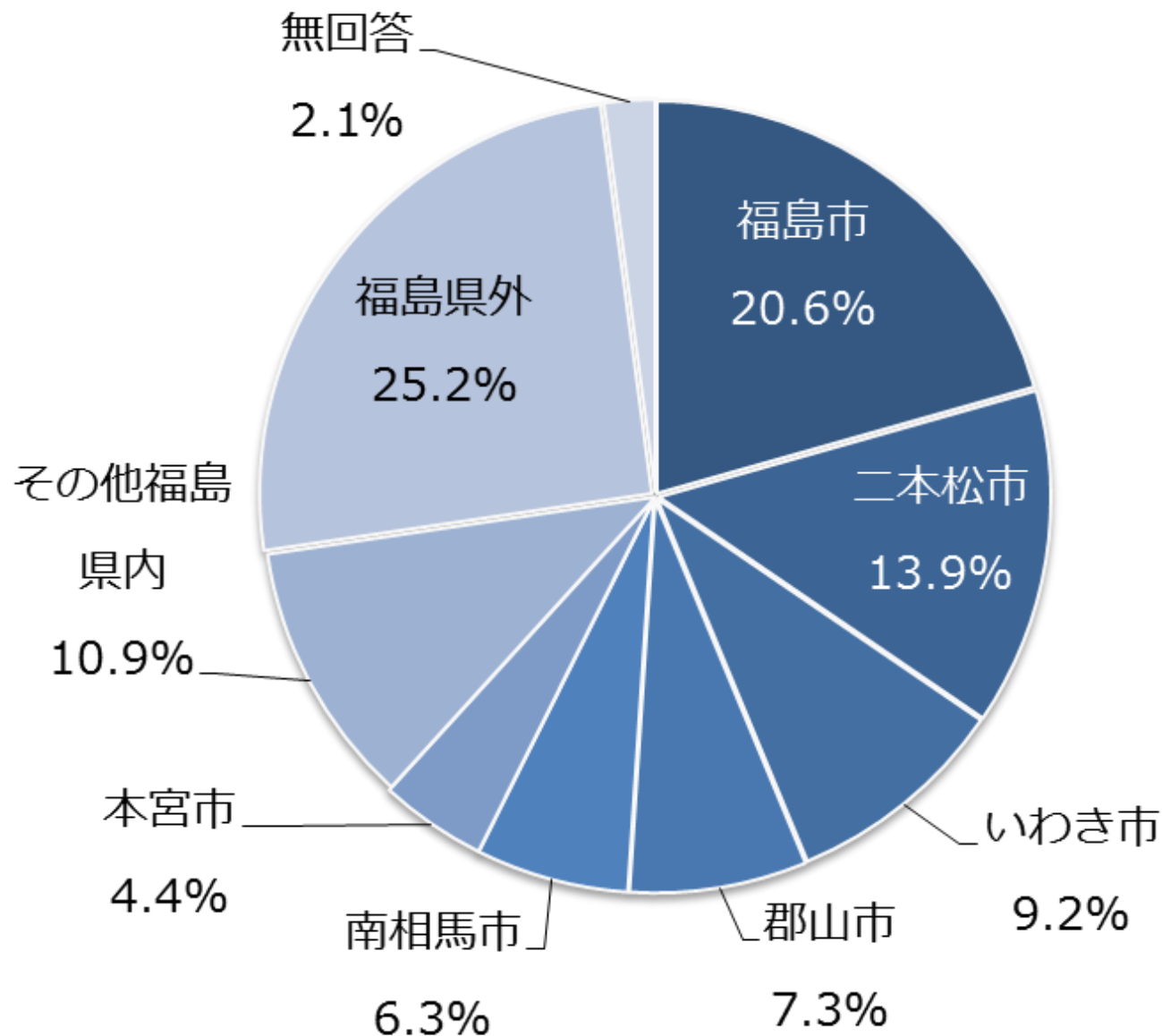
**福島県浪江町における生活情報の受信に関する
郵送アンケート調査結果（単純集計）**

1. 実施主体 浪江町・株式会社KDDI総研
2. 調査対象 世帯の代表者 9,869世帯
3. 調査時期 平成25年7月1日～20日
4. 調査方法 郵送法・無記名方式
5. 回収数 4,253世帯
6. 回収率 43.1%
7. その他 本アンケート調査に先立ち、浪江町民の方
(75名) へのインタビュー調査を実施しています

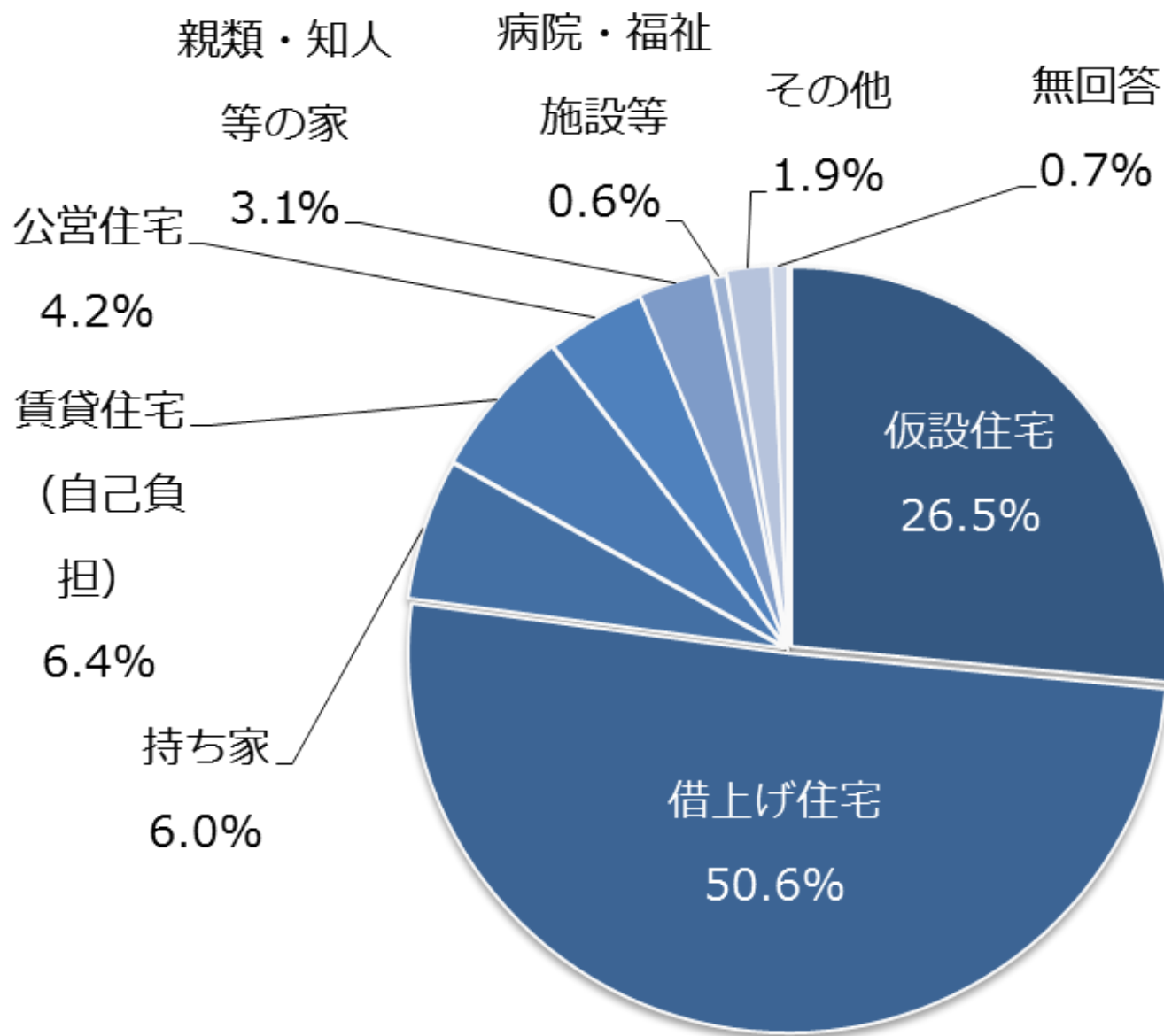
2-1. 回答者年代 (4,253世帯中)



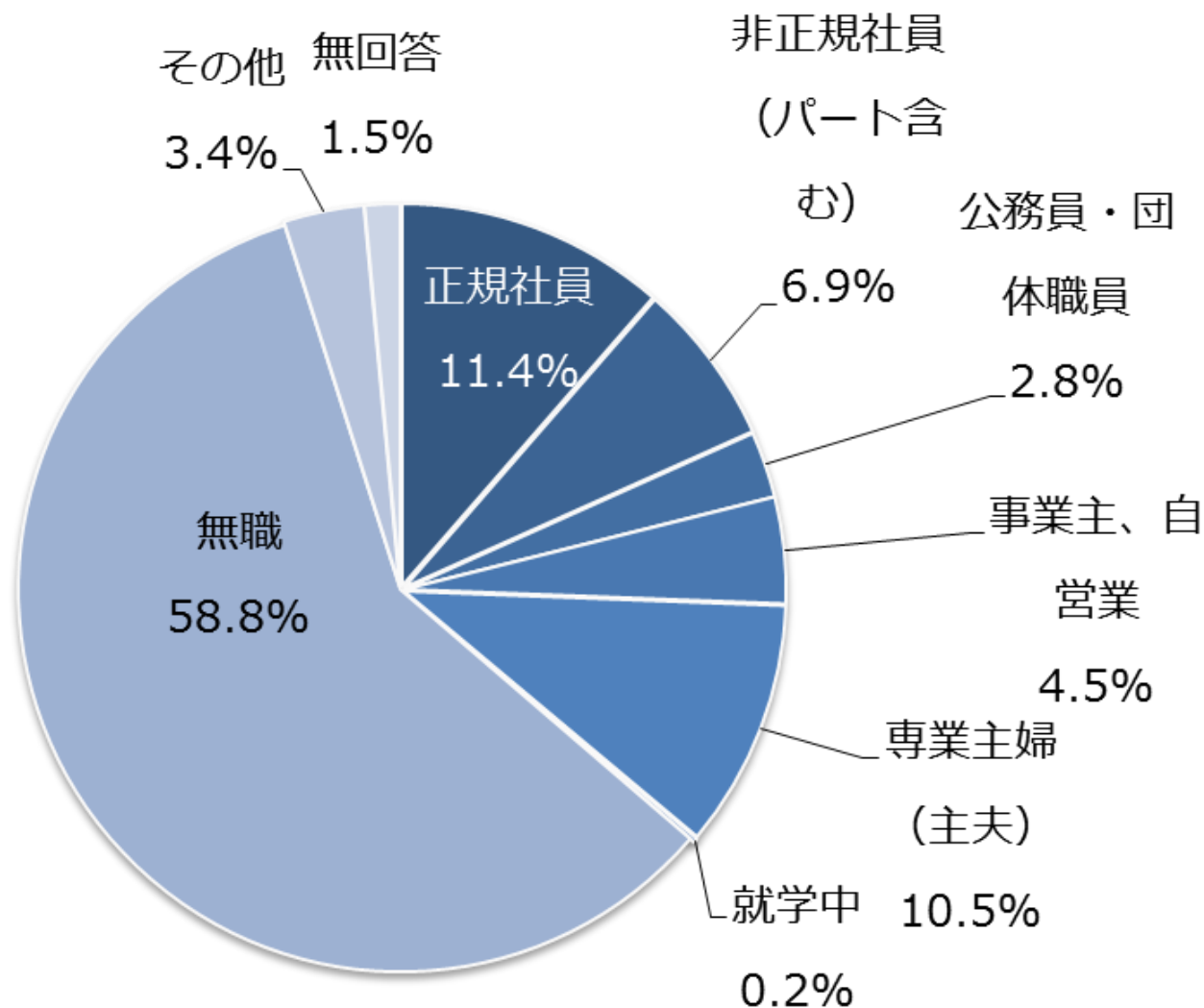
2-2. 避難先自治体（4,253世帯中）



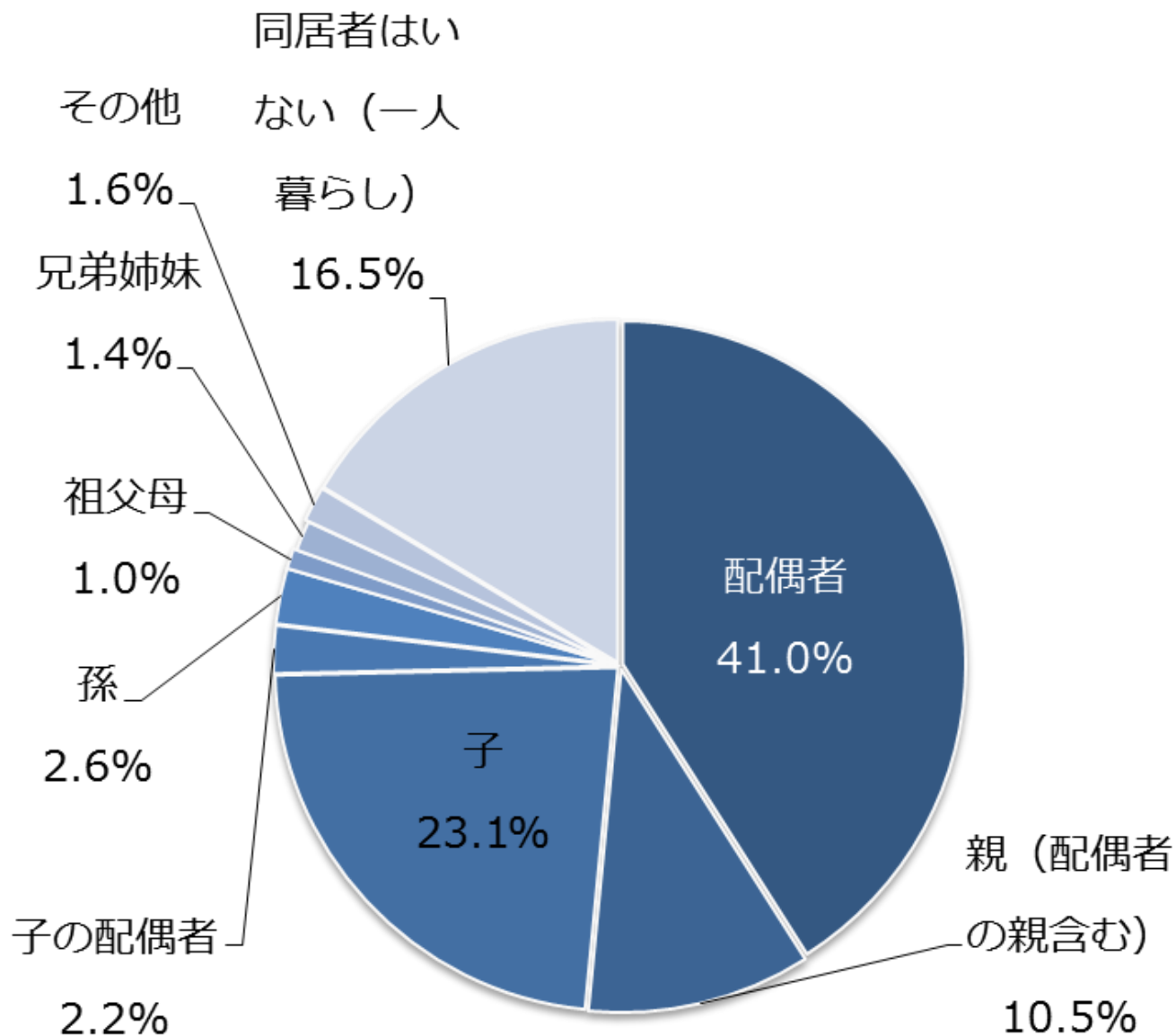
2-3. 現在の住居形態（4,253世帯中）



2-4. 現在の職業（4,253世帯中）

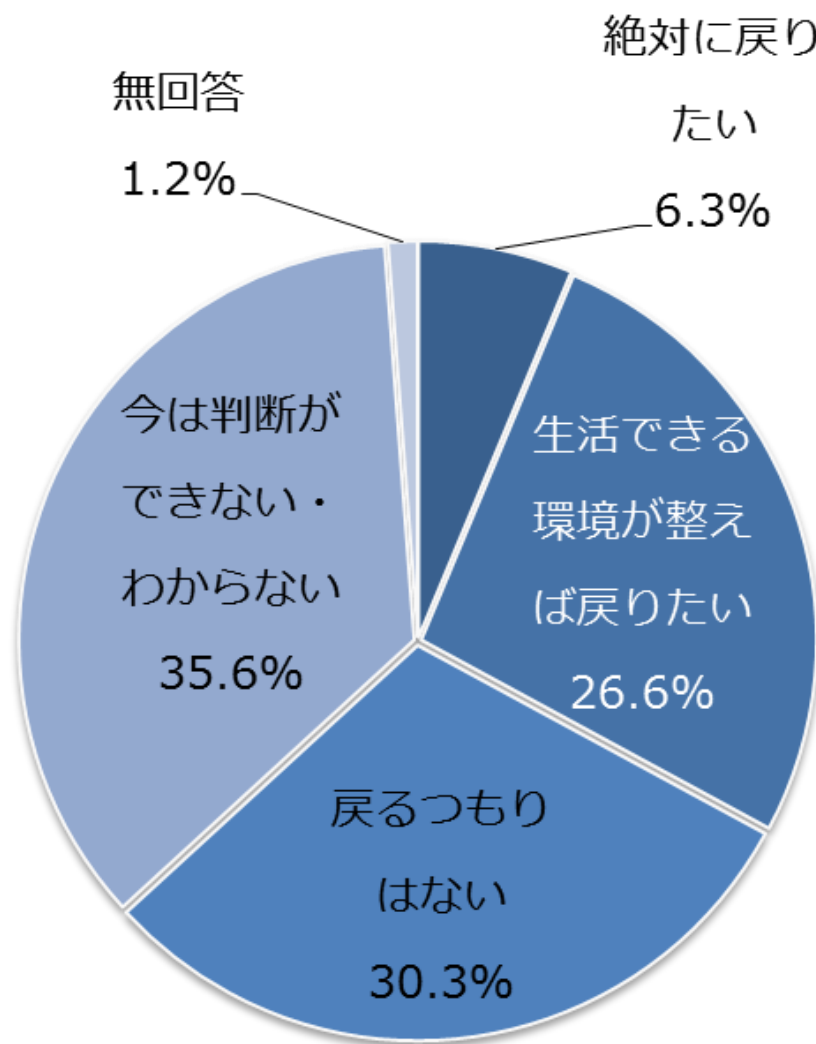


2-5. 現在の同居家族（4,253世帯中）



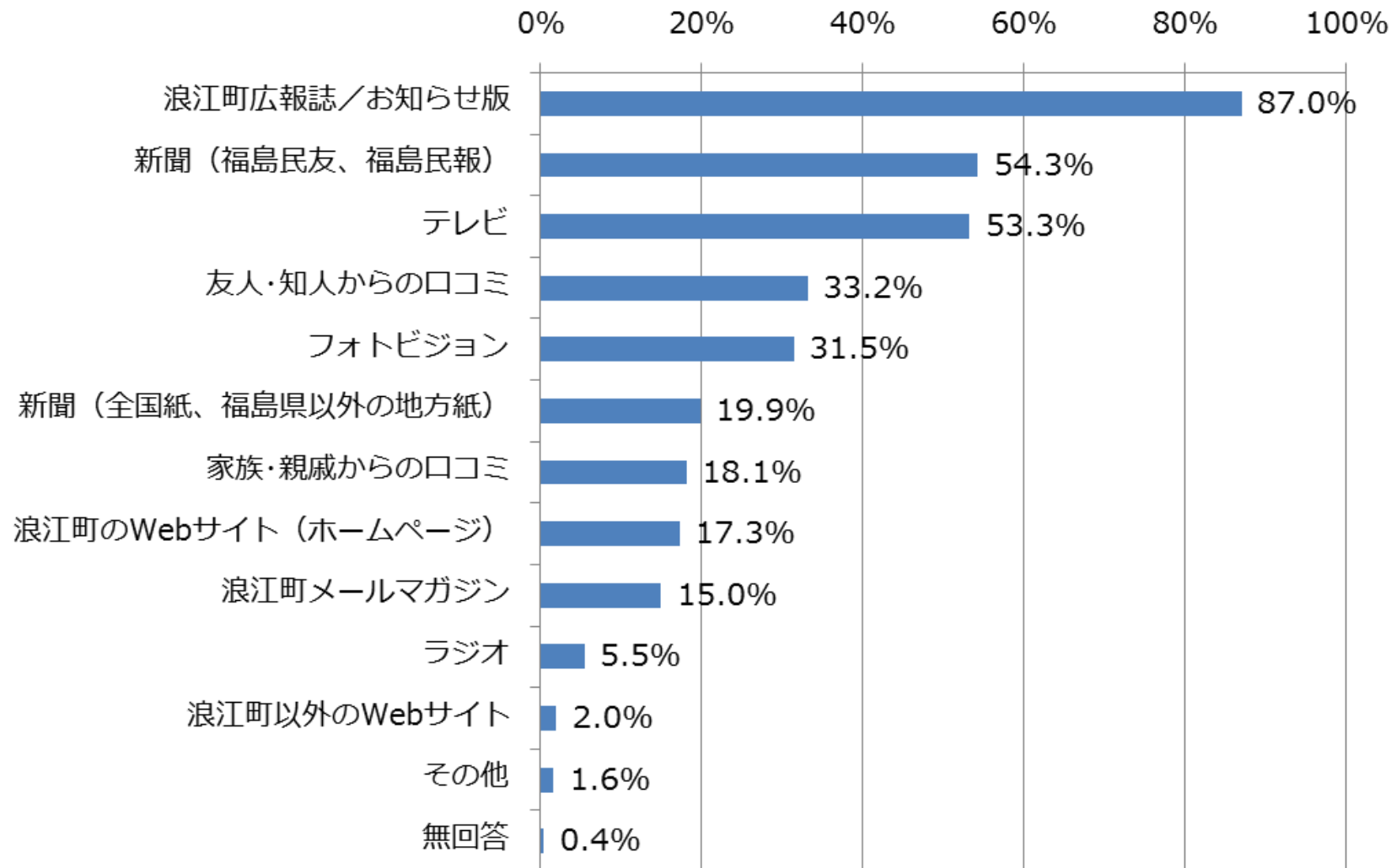
3. 帰町意向（4,253世帯中）

問1：浪江町に戻りたいとお考えですか。



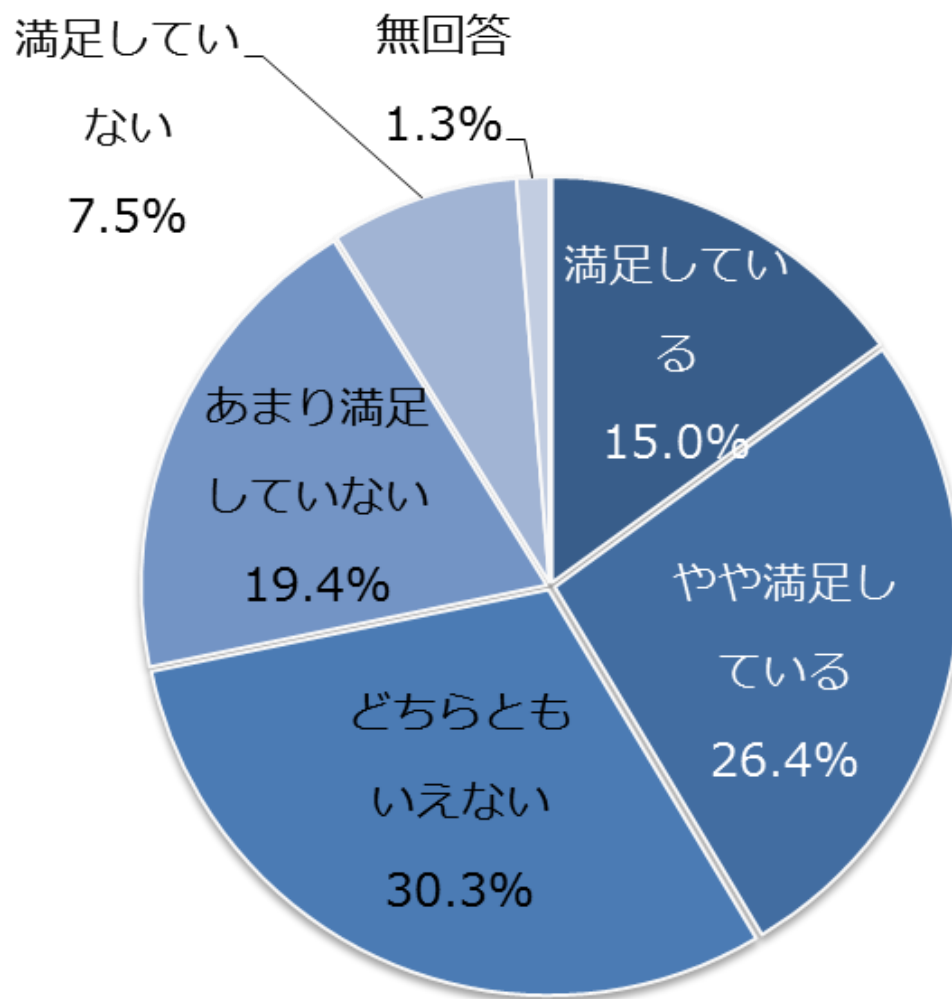
4. 浪江町に関する情報受信媒体（4,253世帯中）

問2：普段、浪江町に関する情報を、どこでお知りになりますか（複数回答）



5. 情報満足度（4,253世帯中）

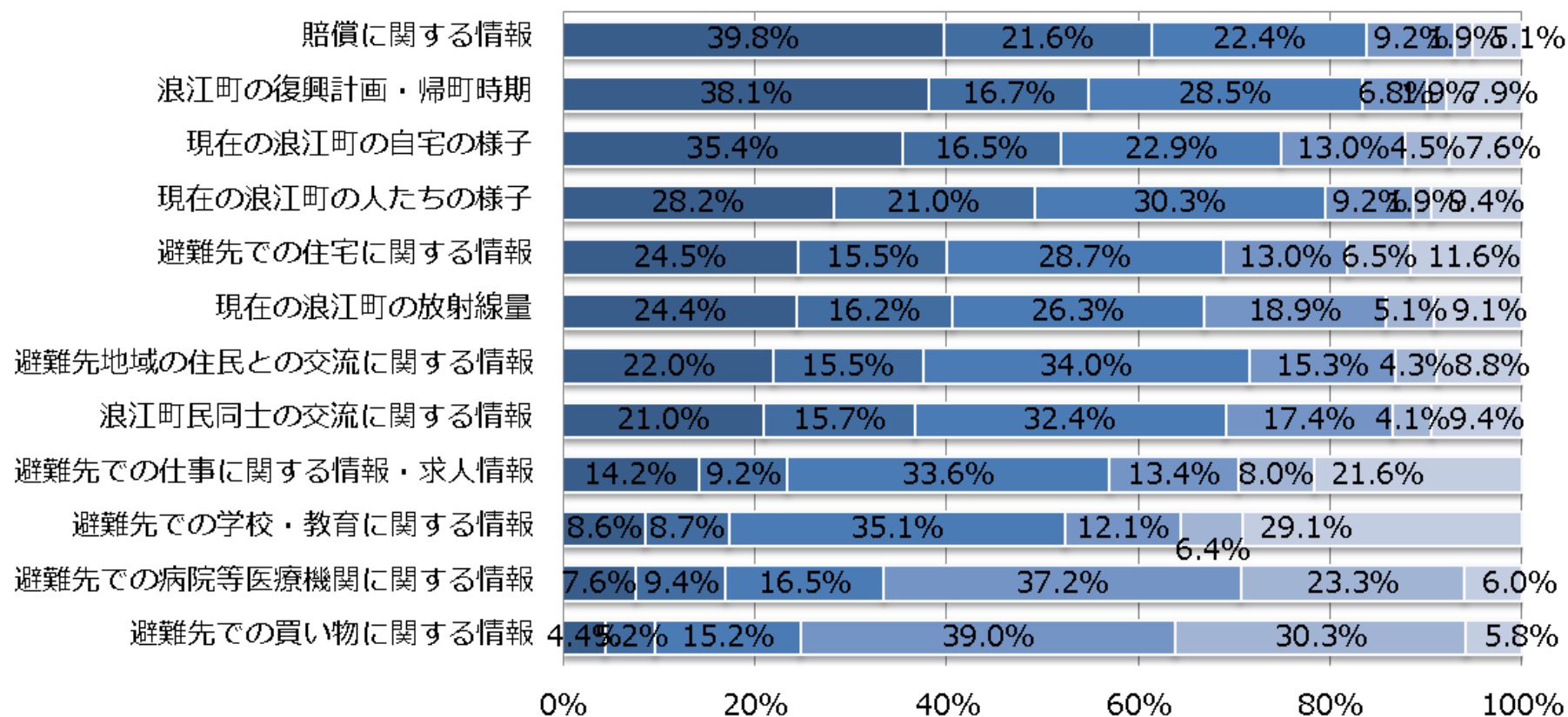
問3：浪江町役場からの情報提供にどの程度満足していますか。



6. 足りていない情報（4,253世帯中）

問4：現在の避難生活を送る上での情報について、足りていないと感じているものはありますか。

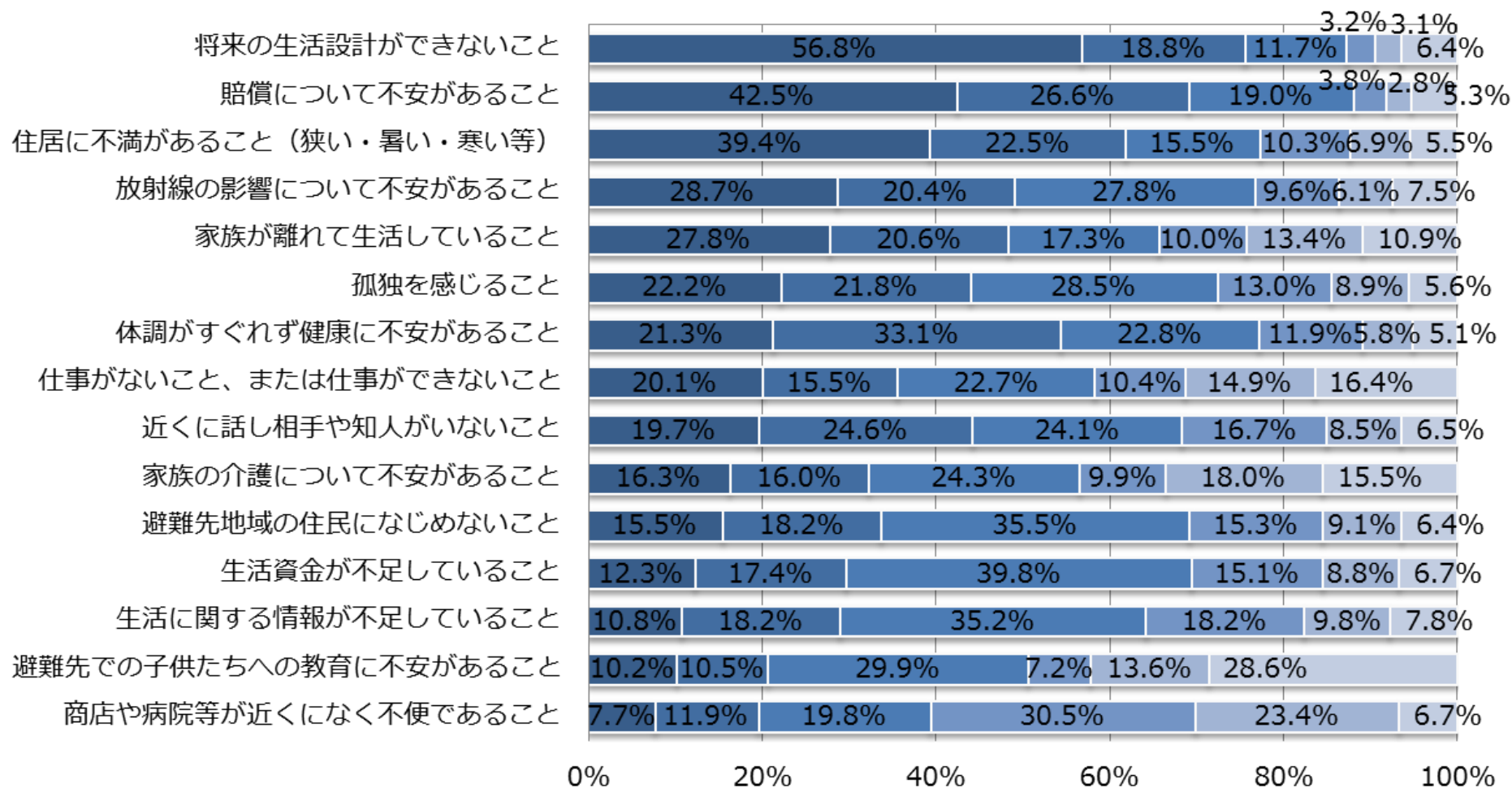
■ 全然足りていない ■ やや足りていない ■ どちらともいえない ■ まずまず足りている ■ 十分足りている ■ 無回答



7. 困っていること (4,253世帯中)

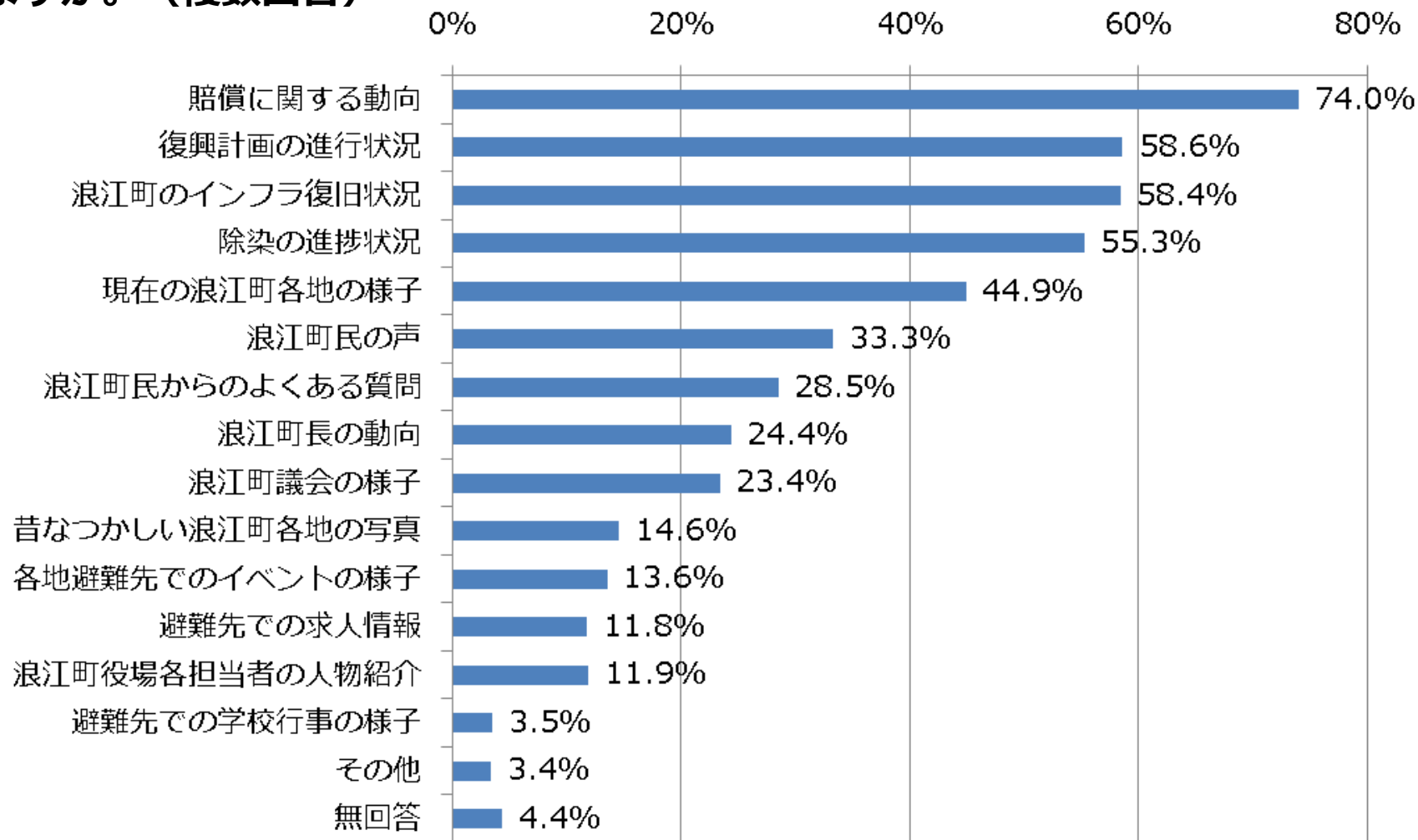
問5：現在の避難生活で困っていることはありますか。

■ 困っている
 ■ やや困っている
 ■ どちらともいえない
 ■ あまり困っていない
 ■ 困っていない
 ■ 無回答



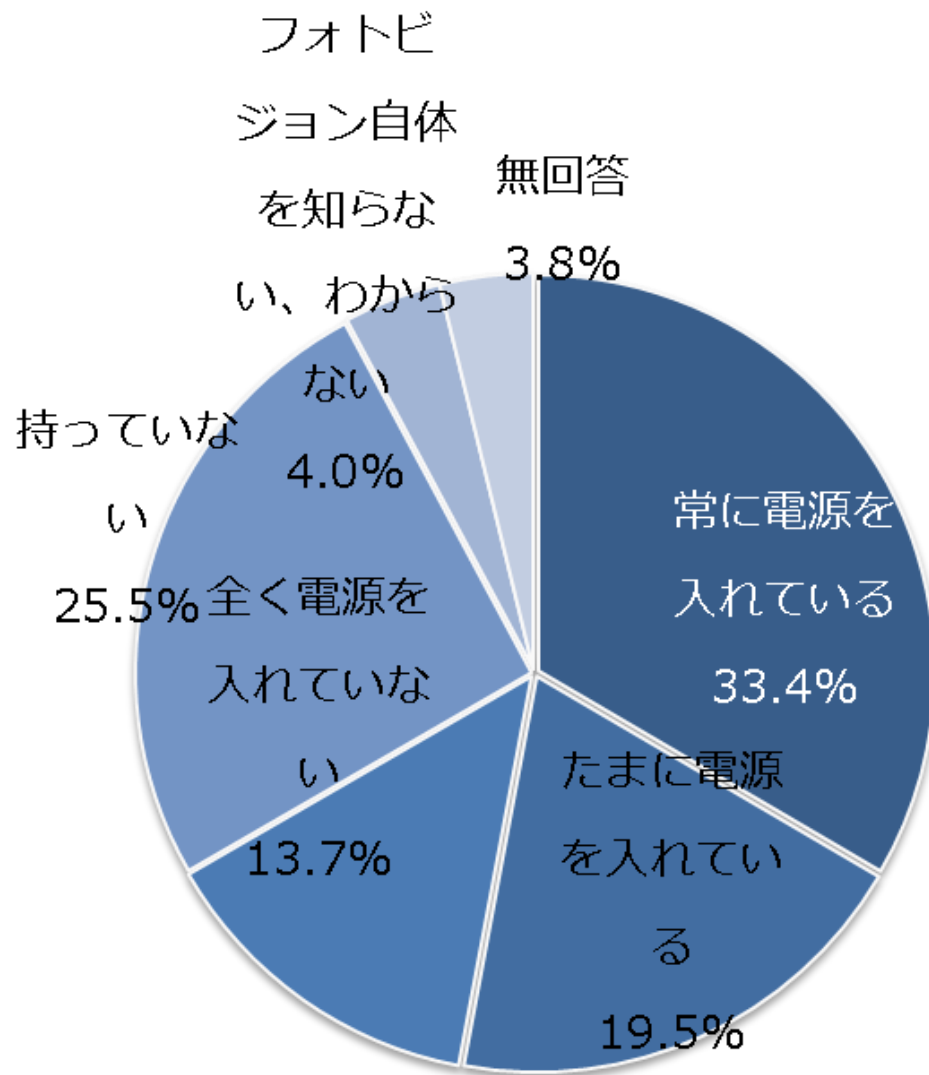
8. 役場から提供してほしい情報（4,253世帯中）

問6：ホームページ、広報誌、フォトリビジョンを介して、浪江町役場から提供してほしい情報はありますか。（複数回答）



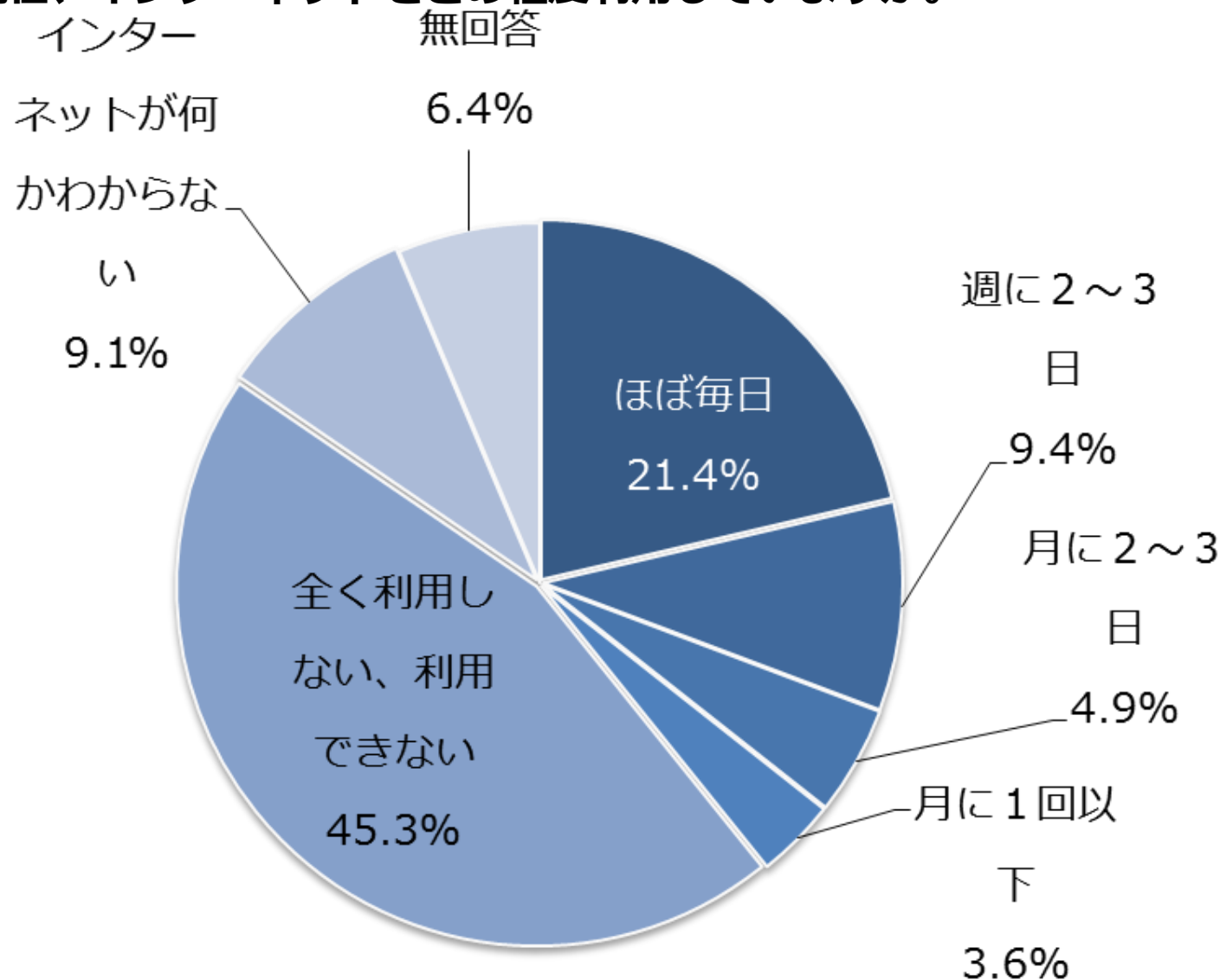
9-1. フォトビジョン利用（4,253世帯中）

問7-(1)：現在、フォトビジョン（浪江町から配られたもの）をどの程度利用していますか。



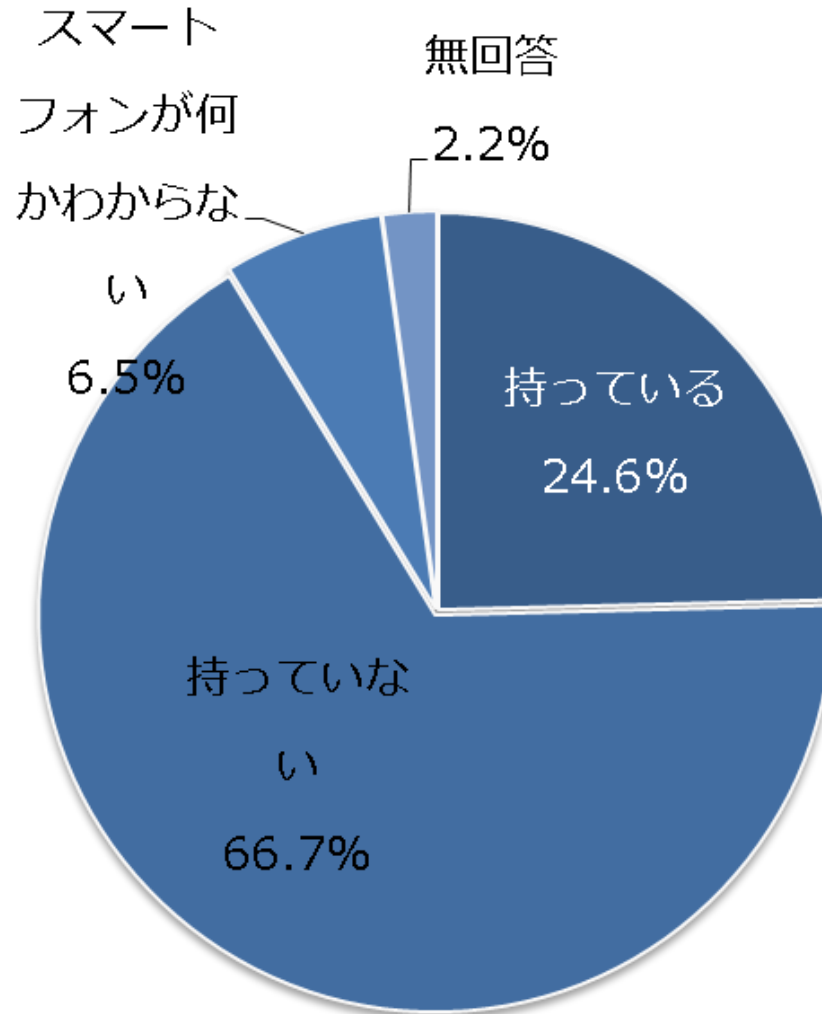
9-2. インターネット利用（4,253世帯中）

問7-(2)：現在、インターネットをどの程度利用していますか。



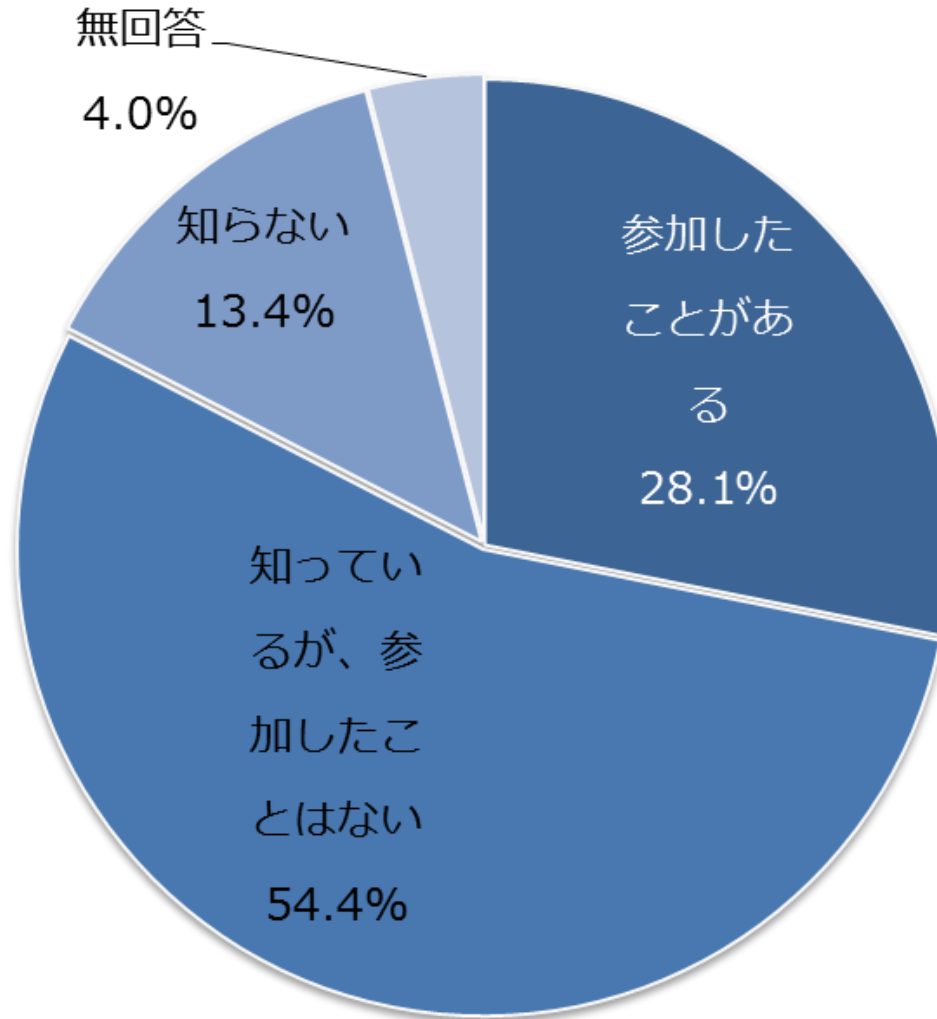
9-3. スマートフォンの所有（4,253世帯中）

問7-(3)：現在、スマートフォンを持っていますか。



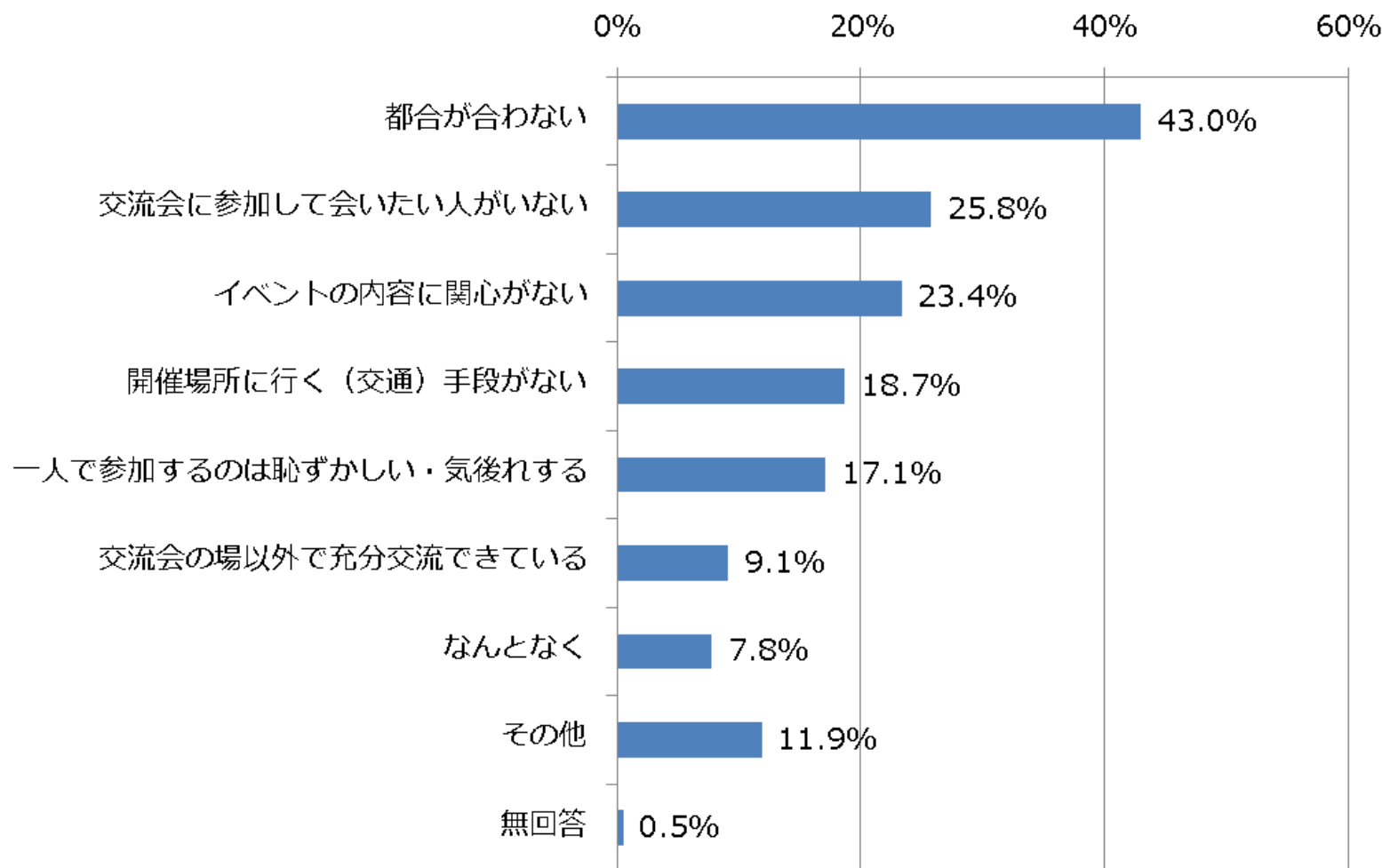
10-1. 町民交流会への参加（4,253世帯中）

問8：震災以降に、浪江町民の交流会（集まっ会等）に参加したことがありますか。



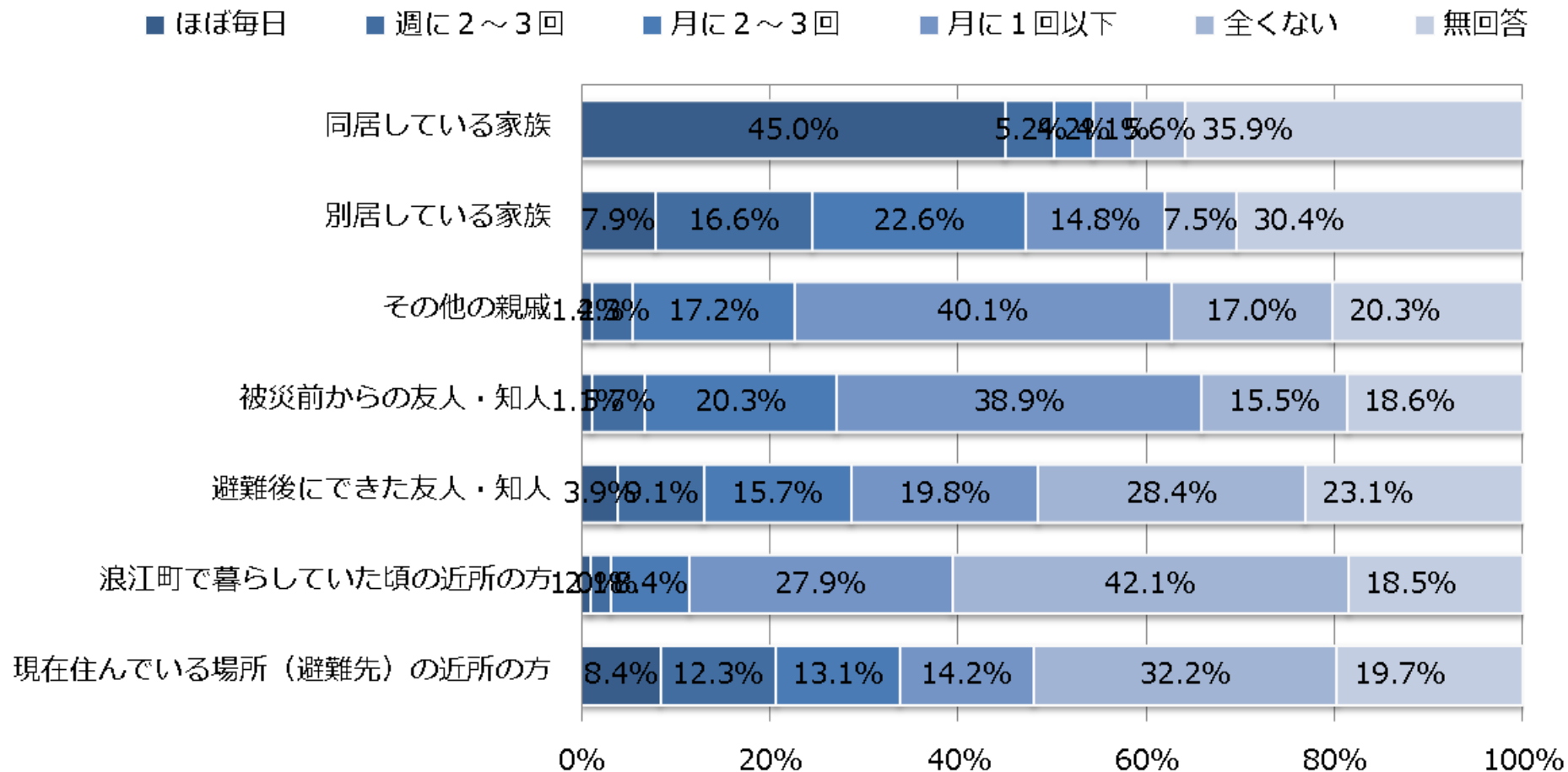
10-2. 町民交流会への不参加理由（2,315世帯中）

付問8-1：あなたが浪江町民の交流会（集まっ会等）に参加しない理由をお知らせください。（交流会を「知っているが、参加したことはない」と回答した方のみが回答）



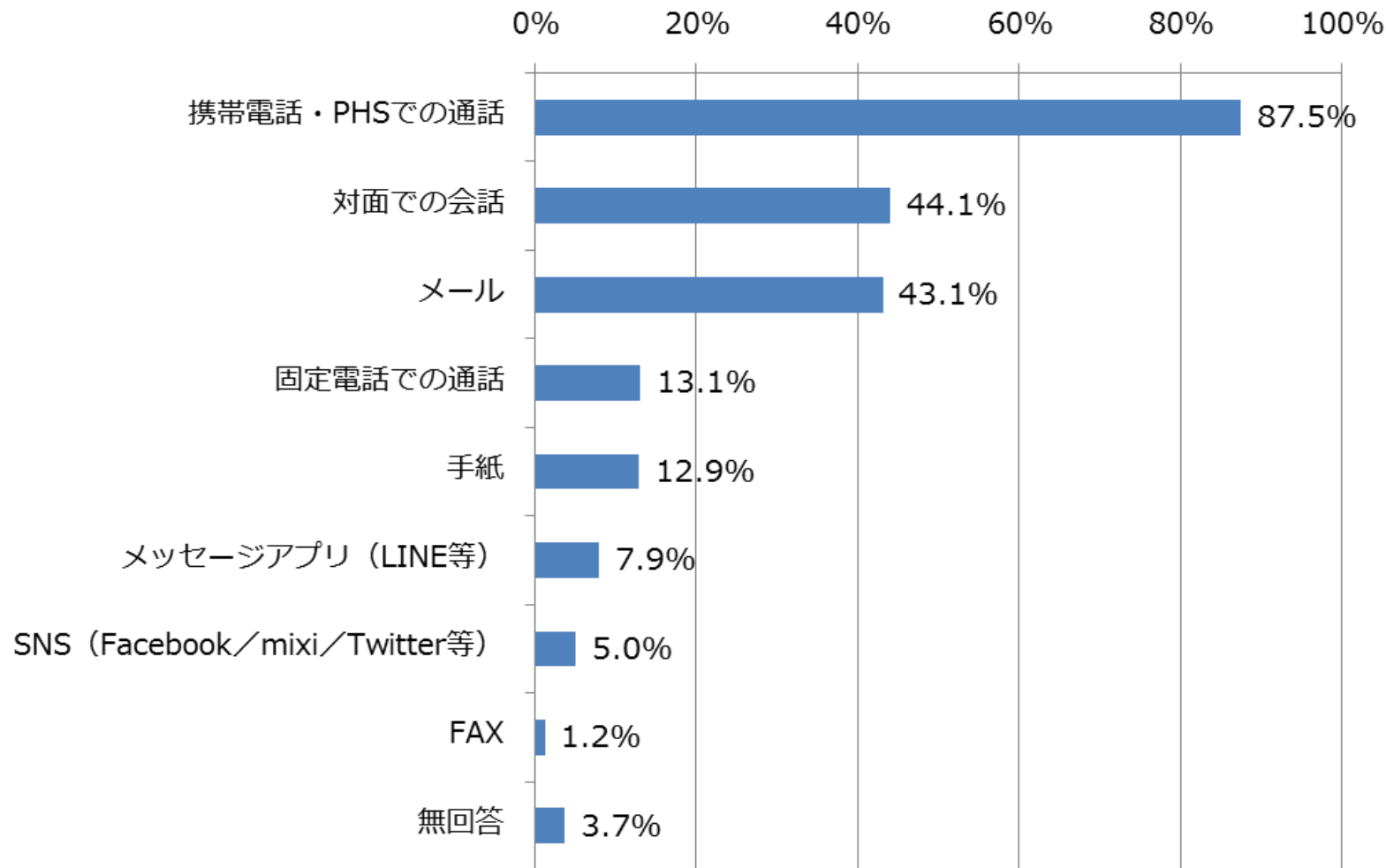
1.1. 連絡する相手と頻度（4,253世帯中）

問9：普段以下に挙げた方々と、どの程度連絡を取っていますか。



1 2. 普段使っている連絡手段（4,253世帯中）

問10：普段使っている連絡手段を、下の項目の中からすべてお知らせください。
（複数回答）



13. あなたのお気持ち（4,253世帯中）

問11：現在のあなたのお気持ちに近いと思われることについて、下の項目の中から、あてはまるものに○をつけてください（複数回答）

